

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### 目次

(1) 新設組織の概要.....	- 2 -
①新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）.....	- 2 -
②新設組織の特色.....	- 2 -
(2) 人材需要の社会的な動向等.....	- 5 -
①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析.....	- 5 -
②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析.....	- 8 -
③新設組織の主な学生募集地域.....	- 12 -
④既設組織の定員充足の状況.....	- 14 -
(3) 学生確保の見通し.....	- 15 -
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果.....	- 15 -
ア 既設組織における取組とその目標.....	- 15 -
イ 新設組織における取組とその目標.....	- 17 -
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数.....	- 20 -
②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）.....	- 21 -
ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性.....	- 21 -
イ 競合校の入学志願動向等.....	- 23 -
ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）..	- 24 -
エ 学生納付金等の金額設定の理由.....	- 27 -
③先行事例分析.....	- 28 -
④学生確保に関するアンケート調査.....	- 28 -
⑤人材需要に関するアンケート調査等.....	- 30 -
(4) 新設組織の定員設定の理由.....	- 31 -

別紙1 新設組織が置かれる都道府県への入学状況	34
別紙2 既設学科等の収容定員の充足状況	35
別紙3 既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績	42

## (1) 新設組織の概要

### ①新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）

表 1-1. 新設組織の概要

新設組織名称	入学定員	収容定員	所在地
松山大学情報学部情報学科	120名	480名	文京キャンパス 愛媛県松山市文京町4番地2 御幸キャンパス 愛媛県松山市御幸1丁目513番地1

松山大学（以下、「本学」という。）情報学部情報学科（以下、「本学部」という。）は表 1-1 のとおり、入学定員 120 名、収容定員 480 名で 2025（令和 7）年度の開設を計画している。教育研究は主として文京キャンパスで行い、一部の科目を御幸キャンパスで実施する計画である。両キャンパス間は徒歩 10 分の距離にある。また、高等学校教諭一種免許状（情報）の教職課程を設置する計画であり、別途教職課程の認定を申請する。

### ②新設組織の特色

本学部が養成する人材像は教育目標に掲げている内容のうち次の下線部分である。

情報学部は、教育目的を達成するために、情報・デジタルの専門的知識・技術だけでなく、それを人と社会のために活用する際に必要な、論理的思考力、課題発見・解決力、共感力、コミュニケーション能力といった他者と協働できる力等の汎用的技能及び現代社会に必要な教養を身に付け、情報システムやメディアデザインに関する技術から新しい価値を創造し、デジタル技術の導入や運用を推進していく人材を養成することを教育目標とする。

本学部で授与する学位は「学士（情報学）」であり、本学部の特色については、Ⅰ. 高等教育の中核基盤としての「専門人材の輩出」、Ⅱ. 社会貢献機能（地域貢献・産学官連携、地域の生涯学習機会の拠点）、の 2 つの観点から述べる。

#### Ⅰ. 高等教育の中核基盤としての「専門人材の輩出」

##### 1) 2 つの分野によって、興味関心に応じて学びを広げられるカリキュラム

本学部では、情報システムや情報インフラの構築・管理・運用に焦点を当てた分野（「情報システム分野」）だけでなく、メディア情報処理と情報デザインに焦点を当てた分野（「メディアデザイン分野」）を置き、それぞれを「情報システム専門科目」「メディアデザイン専門科目」として設定し、科目を配置している。また、膨大なデータを分析し、それを課題解決に活用するデータサイエンスの分野や、生成系 AI に代表される AI や機械学習の分野は、近年特に注目を集めている。これらの AI・データサイエンス分野は今後社会のいたるところで活用が進むことが予想されることから、両分野に共通する専門科目として位置づけ、「共通専門科目」に科目を配置している。それによって、2 つの分野

の中で、学生が情報学の専門性を深めていくと同時に、それぞれの興味関心に応じて主体性を持って柔軟に知識や技術を広げ深めていけるようなカリキュラムを提供する。

## 2) アウトカムを意識し、体系的と順次性を考慮した「目標別プログラム」

高等学校までに学習した科目の違いに配慮し、入学時の知識が異なっているが、専門科目における体系的な学びが損なわれないように、基礎的な科目も配置しているが、学生の主体性や多種多様な興味関心を尊重するために、演習科目及び最低限必要な科目を除き、多くの科目をカリキュラム全体での必修科目ではなく選択必修科目として配置している。その代わりとして、本学部のカリキュラムでは、専門性と体系的性を考慮して13のプログラム（以下「目標別プログラム」という。）を設定しており、プログラムごとに順次性を考慮した科目配置を行っている【資料1】。

目標別プログラムは、情報システム分野に6プログラム（「情報システム構築」「情報セキュリティ対策」「情報ネットワーク構築」「クラウド開発」「アプリ開発」「デジタル回路設計」）、メディアデザイン分野に5プログラム（「画像処理・画像解析」「物理シミュレーション」「映像制作」「デジタルクリエイション」「Web構築」）そして、AI・データサイエンス分野に2プログラム（「データサイエンス」「AI・機械学習」）を設定している。

学生は、入学時のガイダンスにおいて目標別プログラムを示され、指導教員の履修指導を受けながら、1年次から自分の修得したい知識や技術に向かって、各プログラムの科目配置を意識して学修を進めていく。なお、プログラムの選択に制限はないが、各プログラムにはアウトカムにつながる科目を「マイスター科目」として設定し、「マイスター科目」を履修するために前提となる科目を「必須科目」と「推奨科目」として設定する。「マイスター科目」は、「必須科目」を修得していないと履修ができないため、学生は、アウトカムにつながる「マイスター科目」を意識して、各年次の科目を履修しなければならない。例えば、表2-1に示しているとおおり、「『情報システム構築』プログラム」の場合、「マイスター科目」として「情報システム開発」を設定しており、「情報システム開発」を履修するためには、「必須科目」として、1年次前期開講の「プログラミングⅠ」、1年次後期開講の「プログラミングⅡ」「情報数学」「オペレーティングシステム」「Linux実践」、2年次前期開講の「Webプログラミング」「プロジェクトマネジメント」「IT概論Ⅰ」、2年次後期開講の「IT概論Ⅱ」「データベース」を履修しておく必要がある。また、必須ではないが、「推奨科目」として、2年次前期開講の「データ構造とアルゴリズム」や「プログラミング実践」を設定しており、この2科目の履修も推奨される。

表 1-2. 「『情報システム構築』プログラム」の科目配置

配当年次	開講期	必須科目	推奨科目
1 年次	前期	プログラミング I	
	後期	プログラミング II 情報数学 オペレーティングシステム Linux 実践	
2 年次	前期	Web プログラミング プロジェクトマネジメント IT 概論 I	データ構造とアルゴリズム プログラミング実践
	後期	IT 概論 II データベース	
3 年次	前期		
	後期	情報システム開発（マイスター科目）	

この 13 の「目標別プログラム」を定めることにより、カリキュラム全体で必修科目を定めるのではなく、学生自らがアウトカムを意識して、主体的に自らが学ぶ内容を決めていくことを促し、丁寧な履修指導も併せて行うことで、一人一人に適した学びの提供が可能となる。

### 3) 知識と技術を紐付け、社会とつながり、知識と技術を活かす力を伸ばすカリキュラム

本学部の専門科目では、講義と演習を組み合わせた科目を多く配置しており、知識を学ぶと同時にそれを技術に紐づけて、理論と実践の両面から情報学を体系的に学びながら、知識だけでなく実践的な技術を身に付け、「わかる」から「できる」につなげる授業を実施する。また、本学部は、養成する人材像の中で、学生が身に付けた技術から「新しい価値を創造し、デジタル技術の導入や運用を推進していく」ことができる人材になることを目指しており、在学中から社会との接点を持たせることを重視している。そのため、カリキュラムにおいて、「社会実践科目群」に企業等と連携した実践的な PBL 型の科目（「プロジェクト科目」）とインターンシップを中心としたキャリア系科目（「キャリア形成支援科目」）を配置しており、学生が、実際に自分の学んでいる知識や技術を社会の中でどのように用いれば良いのかを学ぶ機会を設けている。「プロジェクト科目」は企業等と協働して、社会の中にある課題に対してプロジェクトを進めていく形態をとっており、チームで課題解決を進めることを学ぶだけでなく、メンバーとしてチームに貢献することやリーダーとしてチームをまとめること等、より実践的な学びを体験的に学修し、課題解決力や主体性等の汎用的技能を育むことができる。また、「キャリア形成支援科目」は「キャリア教育実践」や「地域連携インターンシップ」において、1～2 日間の企業研修や 2 週間の企業実習を受けることにより、実社会の中で自分の技術をどのように活かしていくかを学ぶことができる。なお、学生は卒業までに必ず「社会実践科目」から 10 単位以上を修得しなければならない。

## II. 社会貢献（地域貢献・産学官連携、地域の生涯学習機会の拠点）

学部教育による「専門人材の輩出」以外の地域貢献という側面においては、以下の 3 項目に取り組む。

- ・企業内の人材育成プログラムの開発・実施
- ・企業の課題解決（共同研究・開発、公開講座等）
- ・小中高生、社会人等への授業の開発・実施

本学部では、学生教育に加えて、本学部の教育内容や研究活動に基づいた地域・企業のニーズに沿った IT 教育の実施や、研究者と企業人との対話・交流を通じた企業の IT 領域の課題解決、IT のビジネス活用、DX の推進等、地域のデジタル人材養成と DX 推進に寄与する役割を果たしていくことを目指している。そのため、「企業内の人材育成プログラムの開発・実施」については、協力企業とともに、企業のニーズを把握したうえで推進する。例えば、デジタル人材育成への知識基盤を提供し、初任者研修プログラムを作り上げること、既に IT 関係の知識を持った社員に対して、大学で開講している授業をベースにした内容のプログラムを開講するなどして、デジタル人材の知識のアップデートに貢献すること、経営的な視点からの IT 導入のために、経営層への IT ガバナンスに必要な知識を提供すること等の構想を持っている。また、「企業の課題解決（共同研究・開発、公開講座等）」については、例えば、IT 課題の解決をテーマにした講演会や交流会の開催や企業連携、共同研究の実施、DX 推進のための公開講座の開講等を通じて、IT・DX 時代の企業力強化やビジネスの機会づくりに寄与していくことを計画している。「小中高生、社会人等への授業の開発・実施」については、愛媛県民の IT 知識の向上のための公開講座（生涯学習講座）の開講や愛媛県内の小中学校、高等学校において訪問授業や共同授業を実施し、対象となる児童・生徒の IT への関心やリテラシーの向上、基礎理解の充実等に貢献することを計画している。本学部では、これら 3 項目に関連した取組を 2025（令和 7）年度から開始し、実際のプログラム等を 2026（令和 8）年度から随時実施することを計画している。さらに本学では、これらの地域における社会貢献活動の 3 項目と「社会実践科目群」とを組み合わせ、「松山大学愛媛県企業 IT 人材力強化ネットワーク（仮称）」【資料 2】を、2028（令和 10）年度を目途に設立することを目指している。こうした活動によって、本学は、地域や企業等と好循環サイクルをつくり、本学部の設置を通じて、デジタル人材育成と地域経済の活性化になお一層貢献する。

### （2）人材需要の社会的な動向等

#### ①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

##### 1) 全国的需要

国の「教育未来創造会議」の提言<sup>1</sup>によると、2030（令和 12）年には“先端 IT 人材”が 54.5 万人不足するという調査結果が報告されている。この提言について簡潔にまとめると「デジタル・グリーン等の成長分野への大学等の再編を進め、自然科学(理系)分野を専攻する学生を 5 割程度までに引き上げる」というものであり、2022（令和 4）年 9 月には具体

<sup>1</sup> 内閣官房「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について」（令和 4 年 5 月）

<https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/teigen.html>

的な工程表が示され、着実に実行に移されている。Society 5.0 や第 4 次産業革命など、社会の構造的な変化により、慢性的に不足が指摘されてきた IT 人材に対する需要は急激に高まり、2022（令和 4）年度の高等学校 1 年生からは新学習指導要領に基づいて「情報 I」が必修科目となるなど、情報分野に対する社会的ニーズは非常に高まっている。

## 2) 愛媛県の需要

このような国の動きに加え、本学が立地する愛媛県においても、2022（令和 4）年 2 月に「あたらしい愛媛の未来を切り拓く DX 実行プラン」<sup>2</sup>（以下「DX 実行プラン」という。）が愛媛県から発表され、行政や企業のデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進することを表明している。この「DX 実行プラン」では、2030（令和 12）年度までに DX を支えるデジタル人材を 1 万人輩出するという目標が掲げられ、人材育成やハード・ソフト両面の財源確保に向けて 100 億円規模の基金を創設するなどの取組が進められている。また、愛媛県立高等学校等に、理数情報、情報マネジメントなど特色ある学科・コース・系列が新たに設置されるなどの再編が行われるほか、既存高等学校等の普通科においても、情報分野にかかる多彩な学びを提供できる体制づくりが進められている。実際、教科「情報」を通して基礎から専門的な知識・技能まで習得し、情報系も含めた大学進学を目指すカリキュラムの設定が促進されており、表 2-1 に示すように情報系の学科・コース・系列を新設する再編計画が進められている。

表 2-1. 愛媛県の県立高等学校に新たに設置される情報系の学科・コース

No.	学校名	新設学科・コース名	設置年度	生徒数
1	三島高等学校	情報マネジメントコース	令和 7 年度	40
2	周桑高等学校（仮称）	理数情報科	令和 8 年度	40
3	東温高等学校	情報マネジメント系列	令和 8 年度	50 ※
4	伊予高等学校	理数情報科	令和 8 年度	40
5	宇和高等学校	情報マネジメント系列	令和 8 年度	30 ※
6	宇和島南高等学校（仮称）	情報系列	令和 9 年度	30 ※
7	松山南高等学校砥部分校	ゲームクリエーションコース	令和 7 年度	未定
			合計	230

※学科の合計人数及び系列数から生徒数を計算

出典：愛媛県教育委員会「愛媛県県立学校振興計画 新設する学科・コース等」<sup>3</sup>

この再編により増加する定員は 230 名となり、既存の情報系学科設置高等学校の定員と合わせると 590 名となる。このように、愛媛県は情報人材の創出に向けて、具体的な政策を掲げて取り組んでいる状況にある。ほかにも「IT 創業支援・企業誘致による雇用の創出」

<sup>2</sup> 愛媛県「あたらしい愛媛の未来を切り拓く DX 実行プラン」（令和 4 年 2 月）  
<https://www.pref.ehime.jp/uploaded/attachment/105638.pdf>

<sup>3</sup> 愛媛県教育委員会「愛媛県県立学校振興計画 新設する学科・コース等」（令和 5 年 3 月）  
<https://ehime-c.esnet.ed.jp/koukou/shinkou/shiryuu/R5newcourse.pdf>

「企業マッチング、県内定着促進」「新たな学びのための環境整備」などを掲げ、具体的な政策を実行しており、デジタル人材育成推進会議や IT 人材バンク、デジタル実装加速化プロジェクト「トライアングル愛媛」など企業誘致のほかにも、中核産業人材確保のために、愛媛県内企業（登録企業）に就職した学生を対象に、最大 117 万円（IT 人材確保枠で最大 140 万円）まで奨学金返還の支援が受けられるような奨学金返還支援制度が整備されるなど、デジタル人材の獲得に向けた事業が展開されている。

愛媛県が 2022（令和 4）年 4 月から 6 月にかけて実施した IT 技術者に関する IT 企業へのニーズ調査の結果によると、スキル分類ごとの採用希望状況については、アプリケーション（31.6%）、インフラ（14.6%）、UI・UX 等（9.5%）、マーケティング・戦略（9.5%）、運用設計（9.4%）など、「アプリケーション」だけではなく、他の分類スキルも広く求められていることが明らかになっている。特に、「UI・UX（ユーザーの分かりやすさ・満足度）デザイン」などのスキル分野で人材が不足しており、スキルレベルごとの採用希望状況では、IT スキル標準レベル 0 又は 1 相当の初級（11.5%）のニーズが低く、IT スキル標準レベル 2 又は 3 相当の中級（45.9%）及び IT スキル標準レベル 4 又は 5 相当の上級（45.8%）が高いことが示されている。

一方、ユーザー企業に対する IT 技術者のニーズ調査の結果によると、

- IT 技術者が在籍している企業は 10%程度で、ユーザー企業の多くは IT 技術者を確保できていない。
- 70%超の企業で内製化が進んでおらず、IT 企業への依存度が高い状況となっている。
- DX の取組状況は、「取り組んでいる」「取り組む予定」が 30%弱、「取り組んでいない」「予定なし」「不明」が 70%超となっており、DX への取組が遅れている状況がみられる。

といった現状が示されている。スキル分類ごとの採用希望状況については、アプリケーション（27.5%）、システム全般（15.7%）、マーケティング・戦略（9.8%）、運用（7.8%）などの結果が示されており、「アプリケーション」のニーズが最も高い。また、スキルレベル別では、初級（8.4%）に対するニーズは低く、中級・上級（76.7%）が高い状況である。記述式の意見において「人員不足で募集をかけても集まらない。」という回答が見られるなど、全国だけでなく愛媛県においてもデジタル人材が不足している状況が示されている。

### 3) 社会的需要と地域からの具体的要請

本学部の卒業生の進路としては、情報システム企業におけるプログラマー、システムエンジニア及びアプリ開発者、一般企業における情報システム部門の運用担当者、商品開発などでマーケティングを担当するデータサイエンティスト、金融機関における FinTech を活用したサービス企画者、その他広告制作会社における映像制作者や Web デザイナーなどが想定される。また、情報系大学院進学や、高等学校等で教科「情報」を教える教諭となることも想定される。今後、全国に情報系学部が新設され、同学部の卒業生が増加すると見込まれるが、現在不足している“先端 IT 人材”として、IT ベンダー企業だけでなく、産業分野を問わず DX を推進するユーザー企業の各部門でも活躍することが、高度情報社会を支える社会からの要請でもある。

そうした中で、本学部の創設については、地域社会のみならず愛媛県からも大きな期待

が寄せられている。その証左として、2022（令和 4）年 12 月には愛媛県からの要請に基づき「愛媛県デジタル人材の育成・確保に向けた連携・協力に関する覚書」を愛媛大学、松山大学、人間環境大学、松山東雲女子大学と愛媛県との間で締結し【資料 3】、さらに 2023（令和 5）年 10 月には、愛媛県及び本学との間で「愛媛県と学校法人松山大学のデジタル人材育成のための学部設置・運営に関する連携協定」を締結した【資料 4】。この協定締結を踏まえて、既に実質的な連携活動にも着手している。2024（令和 6）年 2 月には愛媛県教育委員会及び愛媛県内の県立高等学校長等（9 校）が本学を訪れ、①先述したように各高等学校が今後情報系コースを新設していくに当たり、教育課程編成を検討する委員会等で助言をすること、②各校で実施する課題探究型授業に指導教員を派遣すること等、多くの具体的な要請がなされた。さらに、愛媛県内にある私立高等学校である新田高等学校からも要請を受けており、2023（令和 5）年 9 月には「学校法人松山大学と学校法人新田学園との連携協定に関する覚書」を締結した【資料 5】。加えて、2024（令和 6）年 2 月には愛媛県教育委員会から、愛媛県立高等学校及び中等教育学校計 12 校が文部科学省「高等学校 DX 加速化推進事業」に申請するに際して、本学部との連携について配意を依頼する旨の文書が提出された。このように本学部の創設に当たっては、各方面から高大連携及び高大接続の強化を依頼されており、学生確保の見通しにも大きく寄与するものと考えている。

本学は、本学部の設置認可申請年度である 2023（令和 5）年に創立 100 周年を迎えた。100 年前に地域の要請に基づいて設立された学校として、地域に有為な人材を一人でも多く輩出し、地域の発展に貢献することを使命としている。このように国も地域もデジタル人材を求めているのであれば、可能な限りその要請に応えることが本学の使命である。

## ②中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

ここでは、本学部が学生募集の主な対象として設定している 18 歳人口の全国的、地域的動向について分析した結果について説明する。

「学校基本調査」（文部科学省）の数値を用いて全国の 18 歳人口の将来推計を行ったところ、減少傾向が続き、2034（令和 16）年度には 100 万人を割り込むという結果が得られた（図 2-1）。なお、18 歳人口は、当該年度 3 年前の中学校卒業生、中等教育学校前期課程修了者及び義務教育学校卒業者の人数、小学校 1 年生から中学校 3 年生までの各学年次の在籍者数によって推計される人数から算出した。

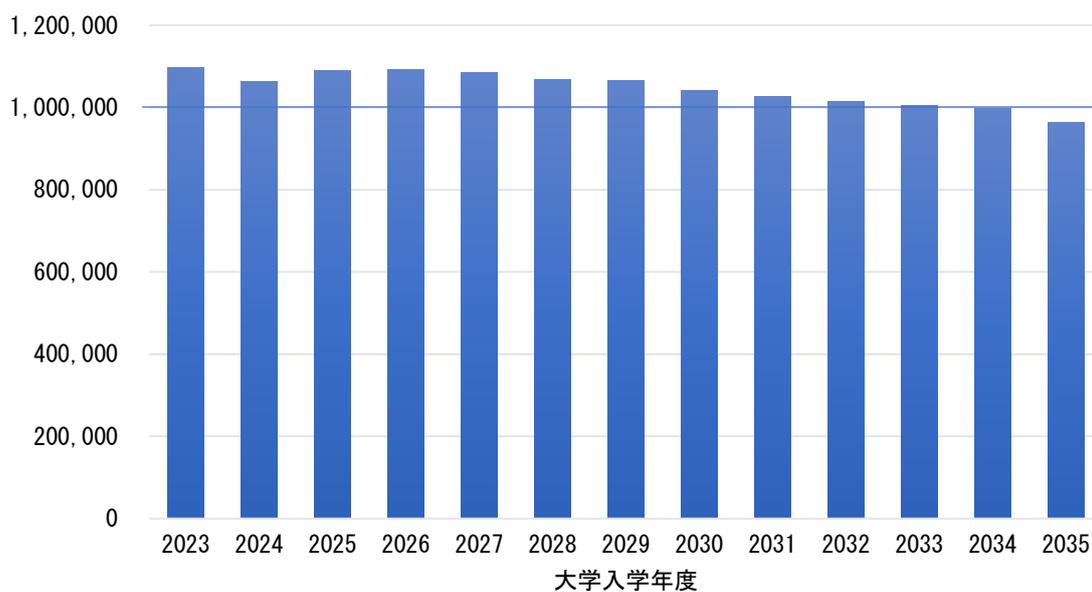


図 2-1. 全国の 18 歳人口推計（2023（令和 5）年 5 月 1 日現在の集計値に基づく）

本学が立地する愛媛県を含む四国地域においても、少子化の進行に伴い 18 歳人口は減少傾向にある（図 2-2）。これによると、本学部が開設してから 10 年後にあたる 2035（令和 17）年度には、愛媛県の 18 歳人口は 10,000 人を下回ることが見込まれている。

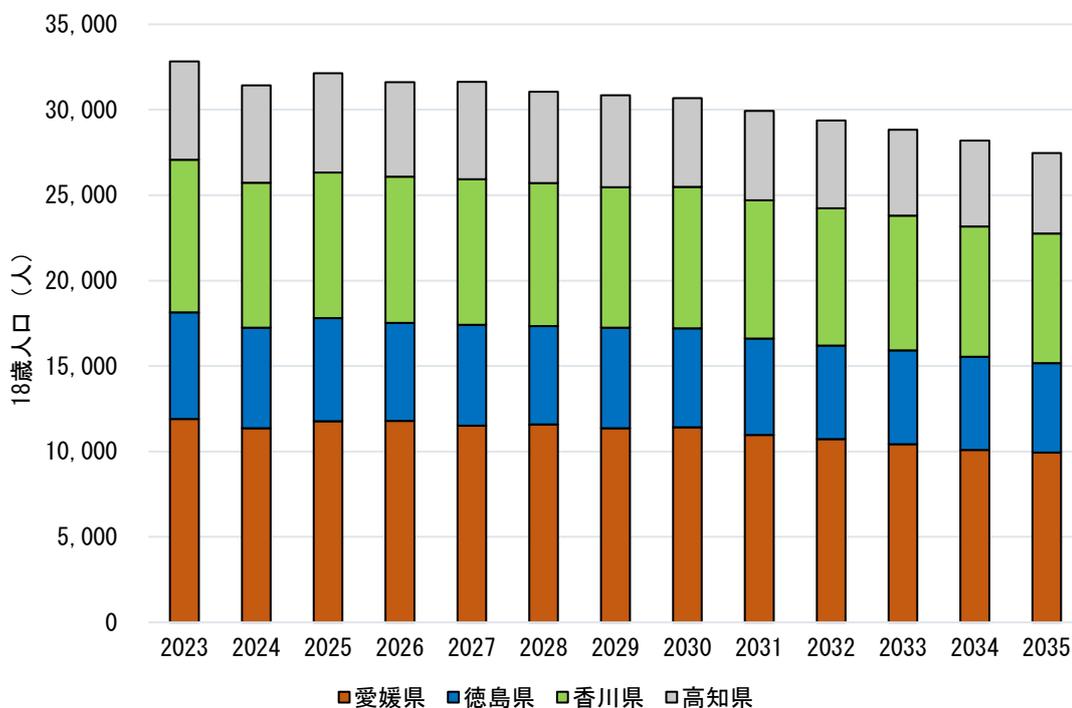


図 2-2. 四国の 18 歳人口推計（2023（令和 5）年 5 月 1 日現在の集計値に基づく）

この数値に基づき、次に 2035（令和 17）年度における愛媛県の大学進学者数を試算する。

中央教育審議会大学分科会による推計<sup>4</sup>によると、大学進学率は今後も上昇を続け、2040（令和 22）年には全国平均で 59.6%、愛媛県は全国平均よりは低いものの 55.8%に達するという数値が示されており、これを用いて 2035（令和 17）年度までの大学進学率を推計したものが図 2-3 である。これによると愛媛県の 2035（令和 17）年度の大学進学率は 54.9%になると推定される。

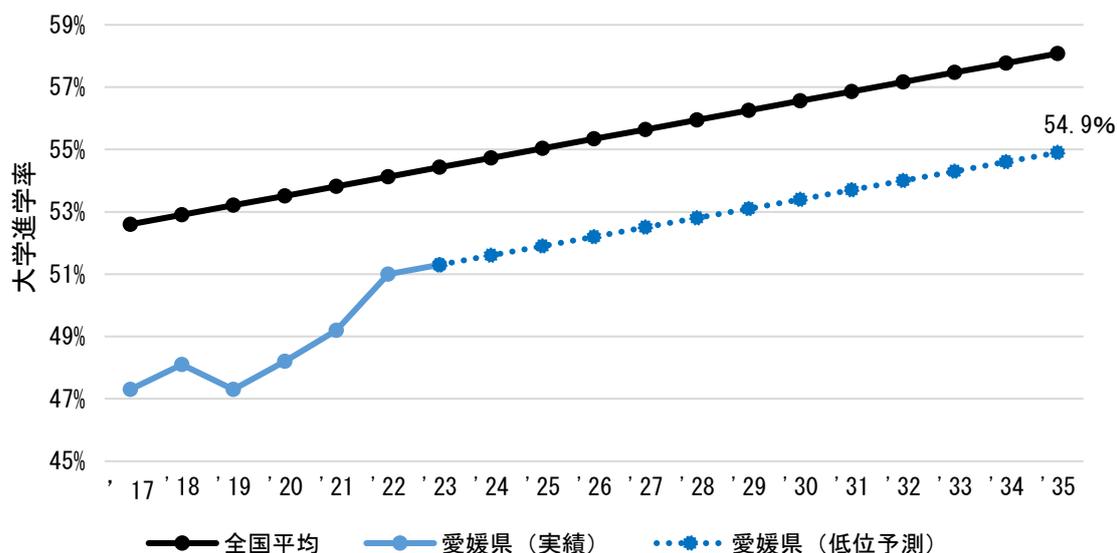


図 2-3. 全国及び愛媛県の大学進学率の実績(2017～2023 年度)及び低位予測(2024～2035 年度)

以上の試算によって得られた、愛媛県における 18 歳人口及び大学進学率の予測数値を用いて、2035（令和 17）年度までの大学進学者数の推計結果を示したものが図 2-4 であり、2025（令和 7）年度の 6,109 人から 2035（令和 17）年度の 5,460 人へと、10 年間で約 1 割減少することが予測される。

<sup>4</sup> 中央教育審議会大学分科会（第 174 回）会議資料 5-1 「大学入学者数等の将来推計について」

<https://www.mext.go.jp/kaigisiryo/content/000248025.pdf>

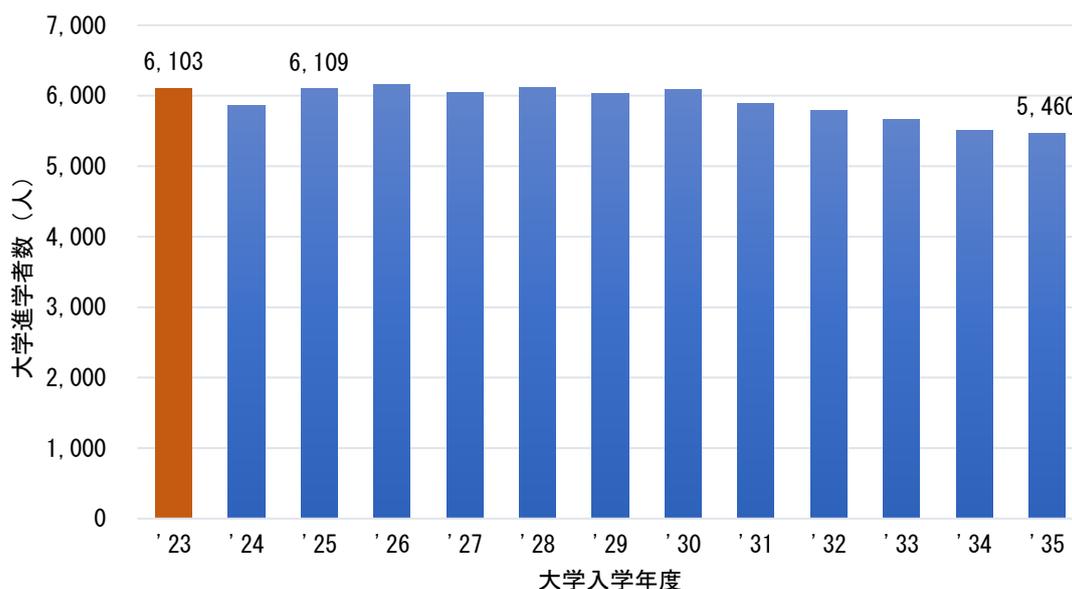


図 2-4. 愛媛県の大学進学者数の実績（2023 年度）及び予測（2024 年度～2035 年度）

「大学入学者に占める理工系分野入学者の割合」（内閣府・文部科学省）<sup>5</sup>によると、2021（令和 3）年度における愛媛県の大学進学者に占める理工系分野入学者の割合は、約 14.5%（理学は約 2.5%、工学は約 12%）である。2023（令和 5）年度の愛媛県の大学進学者数 6,103 名にこの割合を乗ずると、理工系分野への大学入学者の推計値は 885 名（志願者数で考えるとそれよりも大きな数）となる。

愛媛県内には国立の愛媛大学にしか理工系の学部がなく、当該分野を目指す多くの生徒が愛媛県外に流出している。愛媛大学理学部及び工学部の 2019（令和元）年度から 2023（令和 5）年度までの県別入学者数（表 2-2）を見ると、愛媛県内出身比率は 5 年平均で理学部 23.9%、工学部 34.8%であり、愛媛県内からの入学者数は 233 名／年（理学部 56 名及び工学部 177 名）である。理工系分野への入学者推計値 885 名からすると、愛媛県内の高等学校から理工系分野の大学へ進学する者の約 75%は他県へ流出しているものと推計される。そのため、現時点でも既に愛媛県内には理工系分野に対する需要自体は十分に存在しているといえる。加えて、愛媛県内において理工系の進学先が国立大学の 1 校しか存在しないという現状そのものが、その分野への進学希望者数を抑制している可能性も考えられる。そこで、本学に情報系の学びができる理系学部を新設し、愛媛県内の情報学に対する興味関心を喚起することで、理工系分野への進学希望者数を増加させると共に、これまで愛媛県外の大学に進学していた理工系志望の生徒を誘引することで、定員充足が可能になると考えている。

<sup>5</sup> 内閣府男女共同参画局・文部科学省「大学入学者に占める理工系分野入学者の割合」（令和 4 年 10 月）  
[https://www.gender.go.jp/c-challenge/pdf/summer\\_rico\\_2022.pdf](https://www.gender.go.jp/c-challenge/pdf/summer_rico_2022.pdf)

表 2-2. 愛媛大学理学部及び工学部の県別入学者数

入学年度	2019	2020	2021	2022	2023	平均
入学者数	230	243	224	234	239	<b>234</b>
理学部 県内出身者数	55	56	54	58	57	<b>56</b>
県内比率	23.9%	23.0%	24.1%	24.8%	23.8%	<b>23.9%</b>
入学者数	503	512	505	502	520	<b>508</b>
工学部 県内出身者数	164	158	192	190	182	<b>177</b>
県内比率	32.6%	30.9%	38.0%	37.8%	35.0%	<b>34.8%</b>

出典：愛媛大学「学部入試実施統計」<sup>6</sup>

## ③新設組織の主な学生募集地域

表 2-3. 本学既設学部在学生の出身高等学校所在地（2023（令和5）年4月現在）

都道府県名	人数	構成比
愛媛県	3,704 人	65.3%
徳島県、香川県、高知県	1,295 人	22.8%
鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県	475 人	8.4%
その他	202 人	3.6%
合計	5,676 人	100.0%

表 2-3 に示している本学既設学部在学生の出身高等学校所在県によると、本学が立地する愛媛県が最も多く、徳島県、香川県、高知県を含めた四国地域で全体の約 9 割を占めている。したがって、新設する本学部も大半が愛媛県及び四国地域内からの進学者が占めるものと推測している。一方で、愛媛県に所在する大学に入学した者の出身都道府県【別紙 1】を確認すると、2 番目に多いのが広島県（10.1%）、5 番目に多いのが岡山県（4.2%）であり、中国地域からの流入も少なくないことが分かる。これは、愛媛県内に所在するもう一つの主要大学である国立の愛媛大学への入学者であることが推測される。

<sup>6</sup> 愛媛大学「学部入試実施統計」<https://www.ehime-u.ac.jp/entrance/entrance-exam-statistics/>

表 2-4. 愛媛県内の 4 年制大学の入学定員（2023（令和 5）年度）

大学名	入学定員	構成比※1
愛媛大学（国立）	1,770	44.9%
愛媛県立医療技術大学（公立）	100	2.5%
松山大学（私立）	1,350	34.3%
聖カタリナ大学（私立）	250	6.3%
松山東雲女子大学（私立）	110	2.8%
人間環境大学（私立）※2	160	4.1%
岡山理科大学（私立）※2	200	5.2%
合計	3,940	100.0%

※1 構成比は各行で小数点第二位を四捨五入しているため合計が一致しない

※2 人間環境大学と岡山理科大学は愛媛県内に設置している学部的人数

表 2-4 に愛媛県内の 4 年制大学の入学定員（2023（令和 5）年度）を示している。さらに【別紙 1】の「新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況」には、各大学がホームページで公開している情報に基づき、愛媛県内にある各大学及び全体の定員充足状況を示している。これらによると、愛媛県における大学の収容定員の約 8 割を本学及び国立の愛媛大学の 2 校が占めている（両大学の占める割合から、別紙 1 において愛媛県の定員充足の実態を示すに際しては、国公立を問わず愛媛県内にある全大学の数値を集計することが適切と判断した）。

本学と愛媛大学は愛媛県における主要大学として位置づけられ、多くの受験者が併願する傾向にあり、学生募集活動に際しても競合していることから、少なくない数が愛媛大学に進学していると推測される中国地域についても、本学にとって重要な学生募集地域であると考えている。なお、「（3）学生確保の見通し」で説明するが、本学既設学部の学生募集活動として実施している高校訪問でも、四国地域に加えて中国地域も全ての県を訪問している。先述のとおり本学部への進学者の多くは四国地域出身者が占めると思われるが、愛媛大学を志願する広島県及び岡山県出身者への積極的なアプローチによって中国地域からの進学者増加を見込んでいる。

以上を踏まえて、四国地域を第一に、中国地域を第二に優先する学生募集地域として設定する。

また、【別紙 1】の「新設組織の学問分野の定員充足状況」には、日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」に基づき本学部の学問分野が該当すると思われる「情報科学部」及び「情報工学部」における定員充足状況を示している。これによると、直近 3 年の充足状況は概ね 110%前後で推移しており、情報学の分野は全国的に安定的な学生確保ができていくことが見込まれることから、学生募集地域として設定した四国地域及び中国地域をターゲットとして、当該分野の魅力を訴求していくこととする。

#### ④既設組織の定員充足の状況

【別紙2の1】に示すとおり、本学既設の学部・学科のうち、文系4学部5学科については、定員充足率は0.99～1.08であり、問題なく充足している。また18歳人口の減少に伴って実質倍率は徐々に下がってきているものの、各学部・学科の入学定員充足率の5か年平均は【別紙2の2-1～2-6】に示すとおり0.94～1.06となっており、合格者歩留まりの誤差範囲内である。さらに、既に触れた【別紙1】の「新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況」によると、愛媛県は直近3か年とも合計で100%の定員を充足できており、愛媛県全体でも安定的に学生確保ができていくことが分かる。

次に、既設組織の分野別動向に着目すると、愛媛県内において人文科学、社会科学系の学部で一定規模の学生数を有するのは愛媛大学と本学のみであること、本学部の設置に伴い経営学部は60名の入学定員減（収容定員240名減）を実施することから、人口減以上の大幅な志願者減は予想しておらず、引き続き安定的に定員を充足できる見通しを持っている。

一方、薬学部については、本学の位置する四国のみならず、中国、四国地域のほとんどの私立大学で志願者が減少しており、本学も入学者確保の厳しい状況が続いている。その対策として、1）一般選抜Ⅰ期日程とⅡ期日程の同時出願に伴う入学検定料の割引、2）入学試験スカラシップ奨学金の新制度の導入、3）入学者数を絞ることによる実質倍率の引き上げ（その結果としての偏差値及び国家試験合格率の向上）、4）SNSでの発信の強化、5）高大連携の取組強化、6）授業料の改定、7）同窓会組織の立ち上げ、などの取組を進めており、過去5年間を見ると、入学者数は減少しているが、上記「3）入学者数を絞ることによる実質倍率の引き上げ」によって、下記の表2-5のとおり偏差値については改善傾向がみられる。

表2-5. 本学薬学部の入学者数と偏差値推移（一般Ⅰ期）

年 度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
偏差値	37.5	37.5	37.5	35.0	40.0	42.5
入学者数	93名	78名	68名	59名	51名	—

※ 偏差値は「大学ランキング」（朝日新聞出版）掲載の「入試難易度ランキング（河合塾）」より

※ 2024年度は「入試難易予想ランキング表」（24/1/17版）より募集定員の最も多いⅠ期の数値を掲載

また、四国地域出身者の薬学部進学者数（1年次在籍者数）は、表2-6に示すとおり5か年平均は357名で、そのうち愛媛県出身者は118名である。愛媛県内には薬学部は本学にしかなく、四国地域内では徳島大学、徳島文理大学、本学の3大学のみが設置していることから、偏差値向上と学費負担軽減の2つを大きな方策として、2024（令和6）年度より毎年の入学者数を前年度比5～10名増加させることを目標として取組を継続し、入学者確保に努める。

表 2-6. 四国内出身者の薬学部進学者数（1 年次在籍者数）

県	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	5 か年平均
徳島県	78	72	76	90	82	80
香川県	83	81	83	100	98	89
愛媛県	128	103	107	133	117	118
高知県	85	72	74	70	51	70
四国 計	374	328	340	393	348	357

出典：一般社団法人 薬学教育協議会「在籍者数調査結果（6 年制）」<sup>7</sup>

### （3）学生確保の見通し

#### ①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

##### ア 既設組織における取組とその目標

本学部と近接する分野としては、既設学部のうち経営学部の情報コースが該当する。しかしながら、本学の学生募集活動は学部やコース単位では集計していないため、以下では全学の実績に基づいて説明する。

既設組織の学生確保に向けた取組は主に、1）本学の認知・関心を高めるための取組、2）志願者を増やすための取組、に大別できる。なお、集計結果は特に言及している場合を除き、2022（令和 4）年度実績で集計している。

#### 1）本学の認知・関心を高めるための取組

##### A. 印刷物やオリジナルグッズによる広報

冊子「大学案内」を年間 35,000 部発行し、高校生や高校教員、保護者などに配布した。また、オープンキャンパスや出張講義などの情報を掲載した「高大連携プログラムリーフレット」を 800 部発行し、各高等学校宛てに配布した。その他、大学オリジナルグッズとして、今治ハンカチタオル 2 枚セットを 1,000 セット、蛍光ペン 5 色セットを 2,000 セット、シャープペンシルを 3,000 セット作成し、高校生や高校教員、保護者などに配布した。

##### B. 広告による広報

広告媒体として、16 社 21 種類の新聞・雑誌広告に加え、愛媛県の私鉄である伊予鉄道の車内放送及び電停看板広告、松山中央公園野球場「坊ちゃんスタジアム」に広告を掲出した。また、テレビ・メディア戦略として、オープンキャンパスや入試出願の時期に合わせて、地元の放送局を主とした延べ 29 局での TV スポット CM、さらに YouTube、

<sup>7</sup> 一般社団法人 薬学教育協議会「在籍者数調査結果（6 年制）」

[https://yaku-kyou.org/?page\\_id=7612](https://yaku-kyou.org/?page_id=7612)

Google、LINE などにウェブ広告を出稿し、YouTube は 2,732,642 回、Google (GDN) は 18,349,364 回、Google (検索) は 274,165 回、LINE は 11,321,617 回表示された。

### C. インターネットによる広報

本学オフィシャルウェブサイトは、年間 186 本の記事を更新し、訪問回数 1,749,778、閲覧ページ数 3,446,529、訪問者の平均閲覧ページ数は 1.97 であった。主に受験者を対象とした「入試情報サイト」は、年間 40 本の記事を更新し、訪問回数 426,966、閲覧ページ数 908,933、訪問者の平均閲覧ページ数 2.13 であった。また、「WEB オープンキャンパス」では、年間 29 本の動画を更新し、訪問回数 35,937、閲覧ページ数 47,626、訪問者の平均閲覧ページ数 1.33 (2022 (令和 4) 年 6 月～2023 (令和 5) 年 3 月) であった。

さらに、高校生の志向に合わせて SNS による情報発信を重視している。X (旧 Twitter) は年間約 1,000 回、LINE は年間 27 回、Instagram は年間 183 回投稿し、2023 (令和 5) 年 3 月時点で、X フォロワー数 2,646、LINE 友だち数 2,842、Instagram フォロワー数 1,211 であった。なお、半年後の 2023 (令和 5) 年 10 月時点では、X フォロワー数 2,898 (約 10%増)、LINE 友だち数 3,397 (約 20%増)、Instagram フォロワー数 1,560 (約 30%増) となっている。

上記活動の中で受験及び入学に至った割合を算出可能なのは、冊子「大学案内」や「入学試験要項」などの資料請求者数である。これらの資料請求者数は、令和 3 年度 (令和 4 年度入試対応) で 10,156 名 (うち受験対象者 10,153 名、受験者 2,217 名、入学者 1,089 名)、令和 4 年度 (令和 5 年度入試対応) で 11,805 名 (うち受験対象者 11,797 名、受験者 2,053 名、入学者 1,150 名) である。資料請求者のうち、令和 3 年度の受験率 (受験者数/受験対象者数) は 21.84%、入学率 (入学者数/受験対象者数) は 10.73%、令和 4 年度の受験率 (受験者数/受験対象者数) は 17.40%、入学率 (入学者数/受験対象者数) は 9.75%となっている【別紙 3】。

以上に示した広報活動が本学の認知・関心を高めており、直接又は間接的に志願者の増加に寄与し、学生確保に繋がることを見込んでいる。こうした点を踏まえ、今後さらに本学への認知・関心を広げるべく、広報活動の拡充を目指す。

## 2) 志願者を増やすための取組

### D. 高校訪問等

高等学校の進路指導担当者を定期的に訪問し、入試制度やオープンキャンパスに関する案内を行うと共に、訪問対象校から本学へ入学した学生の近況報告などを行っている。訪問にあたっては、入学広報部員 9 名が分担し、愛媛、香川、高知、徳島、鳥取、島根、岡山、広島、山口、福岡、大分、鹿児島、沖縄地区のうち、進学実績のある高等学校を中心に年 2 回、延べ 402 校を訪問した【資料 6】。また、毎年 6 月初旬に本学主催の大学説明会を開催しており、愛媛県内の各高等学校より進路指導担当教諭を中心に 50 名 (50 校) の参加があった。このほか、業者主催の進学相談会を活用し、四国地域を中心に、中国、関西、九州・沖縄の各地域で開催された合同相談会に、対面、オンライン、資料配布を含め 197 回参加した【資料 7】。

### E. 出張講義・オープンキャンパス

本学教員による高等学校への出張講義は、愛媛県内を中心に合計 1,262 名の受講 (合計

44 回実施) があり、オープンキャンパスは合計 2,022 名 (ミニオープンキャンパス含む。以下同じ) の参加があった【資料 8】。また、各高等学校からの希望によって本学のキャンパスを訪れる「オーダーメイドオープンキャンパス」(大学見学) は、計 14 校 647 名の参加があり、参加者からは高評価を得ている【資料 9】。

上記活動の中で受験及び入学に至った割合を算出可能なのは、オープンキャンパスの来場者数である。令和 3 年度 (令和 4 年度入試対応) はオープンキャンパスを 6 回開催し、計 1,491 名 (うち受験対象者 886 名、受験者 616 名、入学者 420 名)、令和 4 年度 (令和 5 年度入試対応) は 7 回開催で 2,022 名 (うち受験対象者 1,089 名、受験者 721 名、入学者 544 名) の参加者を得た。来場者のうち、令和 3 年度開催の受験率 (受験者数/受験対象者数) は 69.53%、入学率 (入学者数/受験対象者数) は 47.40%、令和 4 年度開催の受験率 (受験者数/受験対象者数) は 66.21%、入学率 (入学者数/受験対象者数) は 49.95% である【別紙 3】。オープンキャンパス来場者の受験率や入学率は高い水準であるため、本学部に関心を持つ来場者数を増加させることを重視し、引き続き取組を進めていく。

## イ 新設組織における取組とその目標

本学部の学生確保に向けては、既設学部における入学者確保と同様の取組だけでなく、独自の取組も実施及び計画している。本項でも、既設学部同様に、1) 認知・関心を高めるための取組、2) 志願者を増やすための取組、に大別して述べていく。

### 1) 認知・関心を高めるための取組

#### A. 印刷物やオリジナルグッズによる広報

既設学部と同様に冊子「大学案内」、「高大連携プログラムリーフレット」、大学オリジナルグッズの配布だけでなく、様々なイベント等で掲示・配布するため、本学部オリジナルのリーフレット (17,000 枚)、オリジナルポスター (1,000 枚) の作成、中四国九州地域の家庭に 3.1 万冊配布される予定の新設大学連合リーフレット (Benesse マナビジョン作成) への掲載を計画している。

#### B. 広告による広報

既設学部と同様に、新聞・雑誌、鉄道の車内放送、駅看板広告、松山中央公園野球場への広告、TVC、YouTube、GDN、Google 検索、LINE などへのウェブ広告に加えて、松山市内を走る路面電車の車体広告、愛媛県内で 1 日の利用者数が最も多い駅である松山市駅にあるデジタルサイネージへの広告、進学ウェブサイトへの広告として「スタディサプリ進路 (大学紹介ページ追加、新設学部特集ページ)」「Benesse マナビジョン (メッセージ配信 2,000 通)」「進学事典 for School」の出稿を計画している。また、設置認可後には大学外壁に本学部開設を告知する横断幕及び懸垂幕を掲げる予定である。

#### C. インターネットによる広報

本学オフィシャルウェブサイトや「入試情報サイト」に加えて、2023 (令和 5) 年 10 月には「情報学部特設サイト」を開設して各方面に告知を行い、2024 (令和 6) 年 2 月 14 日時点で閲覧回数は 13,036 回に達している。また、SNS での情報発信については、X (旧 Twitter) で随時発信している本学部関係の投稿は、2024 (令和 6) 年 2 月 14 日時点で累

計 45,059 回のインプレッション（表示回数）を得た。Instagram では学生募集地域である中国、四国地域に在住する高校生及び保護者世代にターゲットを限定したウェブ広告を掲出している。本学部の告知について 2023（令和 5）年 12 月と 2024（令和 6）年 1 月の 2 か月で、高校生 289,570 回、保護者 200,228 回のインプレッションを得た。引き続き各種 SNS を活用した情報発信を実施する計画である。

#### D. 公開講座、シンポジウム等

地域の一般市民や小中学校の児童・生徒などを広く対象として、情報学関連の公開講座やサマープログラムの開催を計画しているほか、情報学に関連するシンポジウムなどを一般公開して開催することを計画している。また、新たに建設する情報学部棟（仮称）の完成後には、建物見学ツアーなどの実施を計画しており、これらの取組によって、本学部への認知・関心を高めていく。

以上の取組を通して、冊子「大学案内」や「入学試験要項」などの資料請求者数 3,000 名を目標値とする。

## **2) 志願者を増やすための取組**

#### E. 高校訪問等

本学部の特色の紹介や情報学関連イベントの告知等を行うため、また、設置認可後には、学生募集の情報提供や入試制度の説明などを実施するため、高校訪問を実施することを計画している。訪問校数の目標として延べ 400 校を設定している。そのほかにも、毎年 6 月初旬に行っている愛媛県内の高校教員対象の大学説明会において、本学部に関する内容を説明するほか、設置認可後にも本学部の紹介に特化して同様の説明会を開催する予定である。また、進学相談会についても、対面、オンライン、資料配布を含め年間約 200 回の参加を計画している。

#### F. 出張講義・オープンキャンパス

本学部教員による出張講義に関しては、高等学校等に配布する「高大連携プログラムリーフレット」の中でテーマや内容について紹介し、開設後は年間 20 回の出張講義を行うことを目指す。

オープンキャンパスについては、本学部に限定したミニオープンキャンパスを 2024（令和 6）年 3 月 3 日及び 28 日に開催することを告知したところ、数日のうちに各回 20 名の募集人員が埋まったことから、関心の高さが伺える。このように、本学部単体での「ミニオープンキャンパス」「オーダーメイドオープンキャンパス」を随時実施し、さらに愛媛県内の高校生を対象とした「放課後オープンキャンパス」など、年間で計 20 回実施することを計画している。特に高等学校単位の「オーダーメイドオープンキャンパス」では、愛媛県内の情報系学科・コース等を設置している高等学校に対して特に重点的に告知を行うことを計画している。オープンキャンパスでは、本学部就任予定の教員による模擬講義や施設見学、デジタル機器体験などを実施する予定である。これら様々な形態のオープンキャンパスを実施することで、本学部に関心がある者の年間来場者数 650 名を目標とする。

## G. 高大連携

「(2) 人材需要の社会的な動向等」で説明したように、愛媛県内の各県立高等学校では情報系学科・コースが今後相次いで新設される見込みであり、愛媛県教育委員会及び愛媛県内の県立高等学校長等からも、教育課程編成の助言や課題探究型授業への教員派遣等、多くの具体的な要請がなされている。今後、高大連携及び高大接続の取組をより充実させ、入学試験制度（指定校推薦型選抜）を活用した接続等にもつなげていく計画である。なお、既に 2023（令和 5）年度に、情報学分野を専門とする本学部就任予定の教員が愛媛県立伊予高等学校及び今治西高等学校における探究学習の指導を複数回行っており、同様の依頼が他校からも寄せられている状況である。

以上の取組より、大学案内や入学試験要項などの資料請求者数のうち情報学部に関心がある者の人数を 3,000 名、オープンキャンパス等の来場者数のうち情報学部に関心がある者の人数を 650 名として目標設定し、志願者数 600 名を目指す。

### 3) 3 月下旬から 6 月下旬までの追加的取組

3 月の申請時から 6 月下旬までの間に学生募集のための PR 活動として追加的に実施した事項を以下に記載する。

#### 【愛媛県内高校教員向け説明会】

開催日：2024（令和 6）年 6 月 3 日

内容：本学の入試、教育内容、就職状況の説明及び新たに設置する本学部に関する概要説明、質疑応答受付を実施。

参加高等学校数：53 校（参加者数：64 名）

なお、参加した高校教員に対して実施したアンケート結果（64 名中 60 名が回答）によると、本学部に期待するという声が 9 割（5 段階評価の 5 が 44%、4 が 46%）に上り、地元エリアからの期待の大きさを改めて確認した。

#### 【高校訪問】

実施時期：5 月下旬

内容：近隣県 60 校の高等学校進路指導室を本学教職員（延べ 7 名）が訪問し、本学部に関する概要説明を実施。

対象高等学校：香川県（18 校）、徳島県（12 校）、高知県（10 校）、広島県（11 校）、岡山県（9 校）

なお、6 月から 7 月にかけて四国・中国・九州エリアを対象とした高校訪問（約 200 校）を実施予定。

### 【オープンキャンパス】

イベント名称	開催日	定員	参加者数
ミニオープンキャンパス（再掲）	3/3	20	21
ミニオープンキャンパス（再掲）	3/28	20	26
ミライ体験ツアー	4/21	20	2
ミニオープンキャンパス	4/29	20	6
ミライ体験ツアー	5/26	20	3
ミライ体験ツアー	6/10	10	2
ミライ体験ツアー	6/15	20	40
ミライ体験ツアー	6/28	10	12（申込者数）
ミライ体験ツアー	7/15	20	（受付開始前）

内容：高校生及びその保護者を対象として本学部の概要説明、就学予定教員による体験型模擬授業、在学生による学生生活紹介、質疑応答受付を実施。

参加者への丁寧なフォローができるように各回の定員をあえて少人数に設定しているが、毎回受付開始後間もなくして定員が埋まる状況となっている。

### 【インターネット上の広報】

2024（令和6）年4月1日に本学オフィシャルウェブサイト上の「松山大学情報学部特設サイト」をリニューアルし、4月1日から6月20日までの閲覧件数は29,811件に達している。また、新たに制作した本学部のCM動画を4月より愛媛、岡山、香川、高知、広島各エリアで放映しているほか、ウェブ広告でも同動画を活用しており、YouTubeは661,296回（6月14日時点）、GDNは1,702,981回（4～5月計）、Instagramのターゲットを絞った広告では生徒3,217,953回、保護者470,701回（5月までの累計）のインプレッションを得ている。X（旧 Twitter）で発信している本学部関係の投稿に対するインプレッションは153,868回（6月5日時点）にまで増加している。

### ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

既設学部における学生確保に向けた具体的な取組として、受験率や入学率が明らかになっている【別紙3】の①に記載のオープンキャンパス等の来場者数、②に記載の大学案内や入学試験要項などの資料請求者数の結果から、愛媛県を中心とする学生募集地域において600名程度の受験者を確保できると考えている。まず、本学部に関心があり、大学案内や入学試験要項などの資料請求者数が3,000名とすると、既設学部の2か年平均受験率（19.6%）を乗じて、受験者数588名を見込むことができる。また、オープンキャンパス等の来場者のうち本学部に関心のある者を650名とすると、既設学部の2か年平均受験率（67.9%）より、受験者数441名を見込むことができる。これらを合計すると1,091名の受験者見込みとなるが、この2つの数値には生徒の重複がある。既設学部の受験者重複の割合は2か年平均で47.0%であるため、本学部における最終的な受験者数見込みは578名である。次に、入学者数見込みは、資料請求者数の2か年平均入学率（10.2%）によって306名、オープンキャンパス等参加者数の2か年平均入学率（48.7%）によって170名と算出され、合わせて476名となる。入学者の重複割合の2か年平均値が58.9%であることか

ら、入学者数見込は196名となり、本学部の入学定員120名を上回る数値となった。

## ②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

### ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

#### 1) 競合校の選定理由

表 3-1. 競合校の概要

大学・学部・学科名称	入学定員	編入学 定員	収容定員	修業年限	設置年度	設置場所
愛媛大学工学部	500	10	2,020	4	1949	愛媛県松山市
高知工科大学情報学群	100	-	403	4	1997	高知県香美市
岡山理科大学情報理工学部	210	-	420	4	2022	岡山県岡山市
広島工業大学情報学部	220	-	880	4	2006	広島県広島市
徳島文理大学人間生活学部 メディアデザイン学科	30	-	120	4	2006	徳島県徳島市

出典：各大学のホームページ掲載情報より作成（2023（令和5）年5月1日現在）

表 3-1 に示すとおり、本学部の競合校として、愛媛大学工学部、高知工科大学情報学群、岡山理科大学情報理工学部、広島工業大学情報学部、徳島文理大学人間生活学部メディアデザイン学科を選定している。

選定理由として、いずれも情報分野を学修する教育課程が編成されている4年制大学であること、本学部に類似した教育課程を編成していることが挙げられる。また、既に述べたように本学が学生募集地域としているのは第一に四国地域、第二に中国地域である。実際に、本学が立地する愛媛県における出身高等学校所在地別の入学者数構成比は、愛媛県（53.5%）、広島県（10.1%）、香川県（6.1%）、高知県（4.4%）、岡山県（4.2%）の順に高く【別紙1】、今回選定した競合校が立地する地域とも整合している。

## 2) 競合校との比較分析

### 2-1) 受験者学力層

本学及び競合校の受験者学力層については、入学者選抜における科目設定が異なるため単純には比較できないが、本学部の受験者学力層を本学既設学部と同程度と想定すれば、国公立大学である愛媛大学工学部及び高知工科大学情報学群は、本学部よりやや高めの学力層の受験者を集め、本学部はこれら大学の併願者（不合格者）の受け皿になると想定している。また、私立大学である広島工業大学情報学部、岡山理科大学情報理工学部は偏差値の近似具合から、本学部と同程度の学力層の競合校であると考えられる。以下に参考として本学既設学部の偏差値（表 3-2）及び競合各校の偏差値（表 3-3）を示す。

表 3-2. 本学既設学部の偏差値

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023
経済	42.5	45.0	45.0	45.0	42.5	40.0
経営	42.5	42.5	45.0	42.5	40.0	40.0
人文	45.0	47.5	47.5	47.5	45.0	42.5
法	45.0	45.0	47.5	45.0	45.0	45.0
薬	40.0	37.5	37.5	37.5	35.0	40.0

出典：「大学ランキング」（朝日新聞出版）掲載「入試難易度ランキング（河合塾）」

表 3-3. 競合校の偏差値（2023（令和 5）年度）

大学学部名称	偏差値
愛媛大学工学部（国立）	47.5
高知工科大学情報学群（公立）	45.0
岡山理科大学情報理工学部	40.0
広島工業大学情報学部	42.5
徳島文理大学人間生活学部メディアデザイン学科	-

出典：「大学ランキング」（朝日新聞出版）掲載「入試難易度ランキング（河合塾）」

## 2-2) 教育内容

いずれの競合校も情報分野の教育研究を行うという点では相違ないが、その手法について、本学部では PBL 型授業などを重視している点を大きな特徴としている。本学部の教育課程において、地域の企業・団体での実習を行う「キャリア教育実践」と「地域連携インターンシップ」を設定している。本学部の学生の受入先として、前者は 61 の企業・団体（受入人数の合計 313 名）、後者は 56 の企業・団体（受入人数の合計 242 名）から承諾を得られている。これらは本学の校訓「三実」の一つである「実学」を重視した教育実践であり、他の競合校と比較したとき、本学の優位性といえることができる。

## 2-3) 学費及び生活費

本学部の学生納付金（入学金、授業料等）については後の「エ 学生納付金等の金額設定の理由」で詳しく説明するが、近隣地域の同系統学部と同等もしくはやや低い金額設定にしており、一定の競争力を担保している。また、本学及び競合校の所在地に注目すると、私立の競合大学が立地する広島市、岡山市、徳島市は、本学が立地する松山市からはいずれも 300km 以上離れた距離に所在しており、他県の大学に進学するには自宅からの通学は不可能である（一人暮らしを余儀なくされる）。したがって愛媛県在住者にとっては、本学部の設置によって一人暮らしに要する生活コストを大幅に軽減することが可能となり、経済面における大きなメリットが志願者獲得の誘因となる。

## 2-4) 就職、資格取得支援

先に述べた「キャリア教育実践」と「地域連携インターンシップ」は、キャリア教育を

実質的なものにし、就職支援にもつながる役割を担っていることから、競合校にはない優位性の一つであると考えている。また、本学はキャリアセンターが万全のバックアップを行っており、愛媛県内を中心とした地元地域での就職実績に定評がある。

本学部で所定の課程を履修することで、高等学校教諭一種免許状（情報）や司書・司書教諭免許が取得できるほか、各自の学びによって取得が見込まれる資格として、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）が実施する各種情報処理技術者試験や公益財団法人画像情報教育振興協会が実施する各種 CG-ARTS 検定などがある。資格取得を促進するために、教育課程に IT スキル標準などのカリキュラムを内包させるだけでなく、「資格・能力取得奨励金」を設けてインセンティブを付与していることで、資格取得を促す体制を整備している。

## 2-5) 入学試験制度

本学部では、情報学を学ぶ意欲を持った多様な学生を確保するため、一般選抜だけでなく、大学入学共通テスト利用選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜等の多様な入試制度を用意し、普通科のみならず商業科や工業科等の専門学科や総合学科等からも入学者を受け入れることを想定している。国公立大学に比べて多様な入学試験制度を設定して、多くの選択肢を受験者に提供することにより、各自の適性や能力に応じて選抜方法を選択できるよう考慮をしている点は、本学部の強みである。

### イ 競合校の入学志願動向等

表 3-4. 競合校の入学志願動向（2021（令和3）～2023（令和5）年度の3か年平均値）

大学学部	入学試験制度	入学試験 実質倍率	入学定員 充足率
愛媛大学工学部 (国立)	一般(前期)	1.61	1.01
	一般(後期)	1.97	
	推薦等	1.81	
高知工科大学 情報学群 (公立)	一般(前期)	2.43	1.09
	一般(後期)	4.81	
	推薦等	2.83	
岡山理科大学 情報理工学部	一般	1.57	1.01
	共通テスト	2.16	
	推薦等	1.12	
広島工業大学 情報学部	一般	2.88	1.09
	共通テスト	1.60	
	推薦等	1.60	
徳島文理大学人間生活学部 メディアデザイン学科		1.00	0.76

出典：各大学及び進学情報企業のウェブサイトより

競合校の直近3か年における入学志願動向を要約したものが表3-4である（各年度の数値は【資料10】を参照）。これを見ると、徳島文理大学人間生活学部メディアデザイン学科を除いて各大学とも一定の入学試験実質倍率及び入学定員充足率を保持できており、情報学の分野動向としては良好であることが確認できる。また、既に触れたとおり、【別紙1】の「新設組織の学問分野の定員充足状況」によると、「情報科学部」及び「情報工学部」における定員充足状況（直近3か年）は概ね110%前後と堅調に推移しており、情報学の分野は全国的に安定的な学生確保ができています。

#### ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）

上記イで述べたとおり、競合校の入学志願動向は概ね良好であるが、徳島文理大学人間生活学部メディアデザイン学科については入学試験実質倍率及び入学定員充足率が他の競合校と比較して低く、四国地域における学生募集が厳しいことが懸念されるものの、本学部は以下に示す4つの根拠によって、定員を充足できると考えている。

#### 根拠1) 四国の私立大学で初の情報学部設置、近隣に同規模の私立競合校が不在

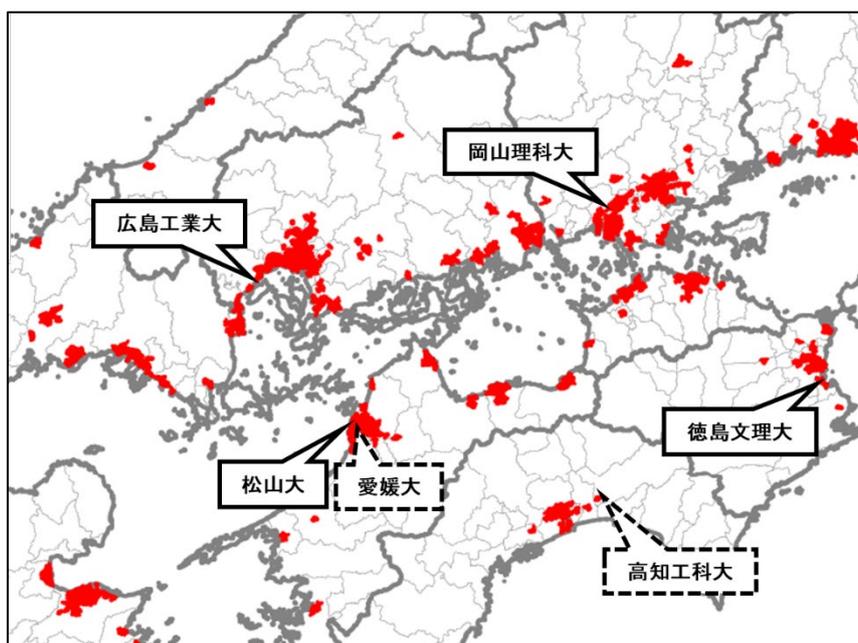


図3-1. 本学及び競合大学の位置関係

出典：「令和2年 人口集中地区全国図」（総務省）に大学所在地を記載

図3-1は本学及び競合大学の所在地を地図上に示したものであり、着色箇所は人口集中地域を表している。本学部は四国の私立大学で初の情報学部設置となる。もっとも、徳島文理大学は情報学部ではないものの、人間生活学部情報系にメディアデザイン学科を設置している。ただし、本学部がある西四国エリア（愛媛県、高知県）には同規模の私立大学で情報学を学べる学部が存在しない。近隣に目立った競合校がないことから、受験者の獲得に大きな優位性を発揮できる。

## 根拠 2) 愛媛県及び高知県の受験者獲得

四国地域のうち、東四国エリアにある香川県は本四連絡橋によって岡山県と陸路で接続しており、徳島県も同様に兵庫県と陸路で接続している。このため東四国エリアは本州の大都市圏への人口流出を避けられないが、本学部が立地する西四国エリアは本州の都市部へのアクセスが良好ではないため、愛媛県及び高知県の受験者を囲い込む上で優位性を発揮することができる。

さらに、競合校の入学志願動向【資料 10】によると、本学部と同じ西四国エリアに所在する愛媛大学工学部（国立）及び高知工科大学情報学群（公立）は一般選抜の入学試験倍率が2倍前後あり、両校合わせて約300名／年の不合格者数（3か年平均）を出しているため、両校と同エリアにあり同系統の学問分野を提供する本学部にとって、志願者を獲得できる余地があると考えている。

## 根拠 3) 愛媛県の人口規模と松山市の生活利便性

表 3-5. 2023（令和 5）年度 四国各県の大学進学者数（出身高等学校の所在地別）

県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	四国 計
人数	3,245	5,031	6,103	2,956	17,335
割合	19%	29%	35%	17%	100%

出典：文部科学省「学校基本調査」

表 3-5 は四国地域の大学進学者数（出身高等学校の所在地別）を示したものである。これによると、本学部がある愛媛県に在住する生徒数は徳島県の約 2 倍であり、四国内では特に大きな規模と割合を占めることが分かる。さらに、上で述べたように、本州の都市部へのアクセスが良好でない高知県にとっては、本学部が立地する愛媛県松山市が最寄りの都市部である。そのため、本学部が立地する愛媛県に次いで、高知県についても受験者獲得のための有力な市場として捉えることができる。

表 3-6. 四国各県の県庁所在地人口（2023（令和 5）年 1 月 1 日現在）

	徳島市	高松市	松山市	高知市
人口	249,040	422,424	503,865	319,724

出典：総務省「住民基本台帳年齢階級別人口」

表 3-6 に示すとおり、本学部が立地する愛媛県松山市は四国地域で人口が最も多い中核市であり、図 3-1 の着色箇所を見ても分かるように、松山市は四国地域で人口集中エリアが最も広範囲にわたっている。全国的に見て、国内主要都市から離れた地域に位置する県では、多くの割合が大学進学時に他エリアへ流出してしまう傾向にある。松山市もその例外ではないが、四国の他都市と比べて母数が大きいことは、学生の絶対数を確保する上で優位性を持っている。また、松山市は単に都市規模が大きいだけでなく、生活コストの安さや通学時間の短さなど、都会と地方の利便性のバランスが取れた、生活環境に優れた街

としても知られている。その根拠を表 3-7 に列挙する。これらも学生募集をする上での強力な誘因となる。

表 3-7. 松山市が高評価を得ている項目<sup>8</sup>

No.	項目	順位
1	シティブランド・ランキング—住みよい街 2021—	中国・四国 1 位
2	街の住みこち & 住みたい街ランキング 2023	四国 1 位
3	2024 年版住みたい田舎ベストランキング「20 万人以上の市」	全国 1 位
4	人口 50 万人以上の都市における物価水準	全国 3 位
5	人口 50 万人以上の都市における家賃	全国 1 位
6	通勤・通学時間の短さ	全国 2 位
7	人口 10 万人当たりの百貨店・スーパーの数	全国 5 位
8	ショッピングセンターへの距離の近さ	全国 1 位
9	病院又は診療所までの距離の近さ	全国 1 位

#### 根拠 4) 自治体との提携及び愛媛県内高等学校における情報系学科新設

「(2) 人材需要の社会的な動向等」で説明したように、本学部は地元自治体である愛媛県からも高度デジタル人材の養成機関として大きな期待を寄せられており、連携協定を締結した事項を以下に再掲列挙する。

- ・「愛媛県デジタル人材の育成・確保に向けた連携・協力に関する覚書」  
2022 (令和 4) 年 12 月 【資料 3】
- ・「愛媛県と学校法人松山大学のデジタル人材育成のための学部の設置・運営に関する連携協定書」2023 (令和 5) 年 10 月 【資料 4】
- ・「学校法人松山大学と学校法人新田学園との連携協定に関する覚書」  
2023 (令和 5) 年 9 月 【資料 5】

また、このほかにも既に「(2) 人材需要の社会的な動向等」で詳しく説明したように、愛媛県立高等学校の再編計画によって情報系の学科・コース・系列が今後新設され、同コースで学ぶ生徒が 230 名増加すること、愛媛県教育委員会及び愛媛県内の各県立高等学校長の来訪を受け、高大連携及び高大接続に関する具体的な取組を依頼されていること、愛媛県教育委員会からは愛媛県内の 12 高等学校が文部科学省「高等学校 DX 加速化推進事業」に申請するに当たり、各校と本学部との連携について配意依頼がなされたことも、本学部の学生確保に大きな追い風となっている。

<sup>8</sup> 各項目の出典は次のとおり

1 <https://www.nikkeibp.co.jp/atcl/newsrelease/corp/20210825/>  
 2 [https://www.eheya.net/sumicoco/2023/ranking/shikoku/sumicoco\\_area.html](https://www.eheya.net/sumicoco/2023/ranking/shikoku/sumicoco_area.html)  
 3 <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000001946.000005069.html>  
 4 <https://www.stat.go.jp/data/kouri/index.html>  
 5 <https://www.stat.go.jp/data/jyutaku/>  
 6~10 <https://matsuyama-kurashi.com/student/ten/>

## まとめ

本学部にとって第一の学生募集地域である四国地域は、本州の大都市圏と比較すると人口規模が大きくなく、定員充足に関して楽観できる状況ではない。しかしながら本学部の優位性分析を行って上記 4 点に整理したように、1) 本学部は四国の私立大学で初の情報学部設置であり、近隣エリアに私立大学の競合校が不在であること、2) 本学が立地する西四国エリア（愛媛県及び高知県）の地理的特性から、愛媛県に加えて高知県の志願者獲得にも優位性を発揮できること、3) 本学が立地する愛媛県及び松山市の人口規模や生活利便性が志願者獲得の誘因となること、4) 地元自治体及び高等学校から具体的な連携要請がなされ、愛媛県内の各高等学校における情報系学科・コースの新設も相次いでいること、以上の点より、定員充足は可能であると考えている。

## エ 学生納付金等の金額設定の理由

学生納付金は、入学金を本学既設学部と同額の 20 万円とし、授業料を 88 万円／年、教育充実費を 30 万円／年（初年度納付金計 138 万円）と設定する。この金額設定は、特色ある教育を充実させ教育研究上の目的を達成するという観点から、また学生募集における競争力を担保する観点から行っている。

他大学との比較でいえば、この初年度納付金額 138 万円は、近畿以西における私立大学情報系学部の初年度納付金（2022（令和 4）年度）の平均値とほぼ同額である（表 3-8）

【資料 11】。また、競合校として位置づける私立大学情報系学部と比較すると、徳島文理大学人間生活学部メディアデザイン学科の初年度納付金額を上回っているものの、広島工業大学情報学部と岡山理科大学情報理工学部よりも安価な設定である。

なお、本学既設学部の初年度納付金額と比較すると、授業料、教育充実費のいずれも、文系学部と薬学部の間、やや文系学部寄りに位置づく設定である。

表 3-8. 近畿以西における私立大学情報系学部の初年度納付金

（単位：円）

	入学金	授業料	教育充実費等	初年度計
近畿エリア	236,667	1,073,133	127,333	1,437,133
平均値	218,235	863,529	246,294	1,328,059
近畿・中国・四国・九州エリア	227,451	968,331	186,814	1,328,059
競合校				
広島工業大学情報学部	250,000	1,120,000	220,000	1,590,000
岡山理科大学情報理工学部	220,000	845,000	465,000	1,530,000
徳島文理大学人間生活学部 メディアデザイン学科	280,000	670,000	320,000	1,270,000
情報学部	200,000	880,000	300,000	1,380,000
本学				
経済・経営・人文・法学部	200,000	680,000	200,000	1,080,000
薬学部	200,000	1,400,000	400,000	2,000,000

### ③先行事例分析

既設組織を廃止して新設組織を設置する場合には当たらないため、当項目の記載はない。

### ④学生確保に関するアンケート調査

現在、本学は経済・経営・人文・法・薬の各学部を設置している。経営学部には情報コースは存在するものの、情報学の学士を授与できる体系的な教育課程を備えた学部・学科は存在しない。そのため、オープンキャンパスや進学説明会の来場者のような本学に興味関心をもつ者にアンケートを取ったとしても、本学部に関する信頼性の高い回答を得るのは困難である。そこで、学生募集地域を中心として、公平かつ客観的で信頼性の高い情報を得るための調査を実施した。

表 3-9. 高校生対象アンケート調査の概要

調査対象	愛媛県、徳島県、香川県、高知県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、福岡県に所在する高等学校の2年生 ※近隣エリアである四国及び中国地域を中心として、本学への入学実績がある高等学校又は訪問実施校を対象とした
調査方法	高等学校留置き調査
依頼人数（依頼校数）	27,650名（170校）
有効回収数（回収校数）	19,495名（160校）※有効回収率：70.5%
調査時期	2023（令和5）年10月11日（水）～11月10日（金）
調査実施機関	株式会社 進研アド

具体的には、本学部の開設年度である2025（令和7）年4月入学の学生募集対象者となる生徒（2023（令和5）年度時点で高等学校2年生）を対象にアンケート調査を行った。調査概要は表3-9のとおりである。外部業者への委託によって、愛媛県を中心に本学の学生募集地域で進学実績のある高等学校等計170校に対して、2023（令和5）年10月に調査票を発送した。調査の方法は、本学部に関する資料として、①学部・学科の名称、②設置の理念、養成する人材像、アドミッション・ポリシー、③設置場所、アクセス、④学生納付金、⑤競合する大学又は学部・学科等の名称を明記した上で、本学部の教育の理念等を理解できる内容のリーフレットを添付し【資料12】、各質問項目について調査票に回答をマーク又は記入する留置き調査の形式である（委託業者からの調査結果報告書及び調査票様式は【資料13】）。

その結果、160校【資料14】から計19,495件の回答が得られた。そのうち大学進学希望者は14,305件、うち私学進学希望者は6,860件で、かつ「高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野」として「情報学」を選択した回答は1,267件であった。したがって、大学進学希望者かつ私学進学希望者かつ情報学に興味があると回答した狭義のターゲット層として、1,267名の高校2年生が存在することが判明した。

なお、興味のある学問分野で「情報学（システム）」を選択した人数は842件、「情報学（メディア・デザイン）」を選択した人数は805件あり、「工学（情報学系を除く）」

の 513 件を上回っており、情報学分野への関心の高さが伺える。

表 3-10. 高校生アンケート調査における「受験及び入学意向あり」の人数

受験意向／入学意向	入学する	他校が不合格の場合に入学する	計
第一志望で受験する	69	6	75
第二志望で受験する	48	111	159
第三志望で受験する	26	256	282
計	143	373	516

質問項目 Q5「あなたは、松山大学『情報学部情報学科』（仮称、設置構想中）が開設された場合、受験を希望しますか。」に対して、志望順位を問わず「受験する」と回答した者のうち、質問項目 Q6「松山大学『情報学部情報学科』（仮称、設置構想中）を受験して合格した場合、入学を希望しますか。」に対して、本学部に「入学する」又は「他の志望校が不合格の場合に入学する」と回答した件数は計 516 件あり、516 名の受験を見込むことができる（表 3-10）。そのうち、クロス集計によって Q5 で「第一志望として受験する」かつ Q6 で「入学する」と回答した件数は 69 件であって、69 名の受験者は第一志望として本学部を受験し、合格すれば入学するという結果が得られた。

表 3-11. 第二志望以下の者の入学率算出

A. 在学生アンケート結果（一般選抜、共通テスト利用選抜合格者）

	2021 入学者	2022 入学者	2023 入学者	合計	比率
第1志望	305	286	319	910	37.56%
第2志望	498	512	503	1,513	62.44%
	803	798	822	2,423	100%

B. 既設学部の実合格者数及び実入学者数（一般選抜、共通テスト利用選抜）

	2021年度	2022年度	2023年度	合計
実合格者数	1,910	1,989	1,927	5,826
実入学者数	832	810	859	2,501

C. 第2志望合格者の入学率算出（上記A、Bを用いて）

	比率	入学者数	合格者数	入学率	
第1志望	37.56%	939	939	100%	←第1志望の者は全員入学すると仮定
第2志望	62.44%	1,562	4,887	32%	←第2志望以下の者が入学する確率
	100%	2,501	5,826	43%	

続いて、第二志望以下の者の入学者数見込みを算出する。表 3-11 の A によると本学既設学部における直近 3 か年の入学者のうち、本学が第一志望であった者が 37.56%、第二志望以下であった者が 62.44%であった（受験者のほとんどが第一志望の者で占められる推薦入試入学者は除き、一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜入学者のみに限定している。以下同じ）。次に表 3-11 の B によると、本学既設学部において、直近 3 か年の実合格者数合計は 5,826 名、そのうち入学に至った者は 2,501 名であった。以上の数値を用いて、表 3-11 の C では第二志望以下の入学率を算出した。その結果、本学既設学部の一般選抜、共

通テスト利用選抜において、第二志望以下で受験し合格した者のうち 32%が入学に至っているという推計が得られた。

今回実施したアンケート調査において、第二志望以下で受験する又は他校が不合格の場合に入学するとした回答者数 447 名（表 3-10）を合格者とみなし、この人数に第二志望以下合格者の入学率である 32%を乗ずると、143 名の入学者が見込まれる。したがって、本学部の入学定員 120 名に対して、第一志望で入学すると回答した者 69 名と合わせると 212 名となる。

入学者の最大数を算出すると上記のような結果となるが、参考値として入学試験による選抜を考慮し、本学既設学部における入試倍率である 1.2 倍<sup>9</sup>を用いて入学希望者数から合格者数を算出した上で、入学見込者数を試算すると次のようになる。

[第一志望入学希望者数 69 ÷ 入試倍率 1.2 = 入学見込者数 57 名] + [第二志望以下受験希望者数 447 名 ÷ 入試倍率 1.2 × 入学率 32% = 入学見込者数 119 名]

これらの人数を合わせると 176 名となり、この場合でも入学定員 120 名を上回る。

さらに、「(3) ①イ 3) 3月下旬から6月下旬までの追加的取組」に記載している通り、2024 (令和 6) 年 4 月以降に本学部オープンキャンパス (ミライ体験ツアー) を複数回開催している。当イベントに参加した高等学校 3 年生の内、2023 (令和 5) 年 10 月に各高校で実施したアンケートに回答していなかった者に対して、本アンケート調査票を配付して意向調査を行ったところ、本学部を第一志望で受験・入学すると回答した者が追加で 6 名、第二志望以下の者が 3 名いたことを付記しておく。

なお今回のアンケート調査で、大学進学を希望する者について、設置者区分で「私立」を選択していない者 (すなわち「国立」又は「公立」のみを選択している者) のうち、興味がある学問分野として「情報学」を選択した者の数は 1,439 名であった。調査対象及び時期が高校 2 年生の秋頃であり、個々の生徒の進路動向は今後も変わり得る。これら情報学に関心がある国公立大学志望者を潜在的志願者と捉え、積極的な広報活動によってアプローチに努めていく。

## ⑤人材需要に関するアンケート調査等

「(2) 人材需要の社会的な動向等」で説明したように、民間企業及び官公庁におけるデジタル分野の人材不足が各方面より指摘されているところではあるが、本学部卒業生に対する社会的な需要を測定するため、表 3-12 に示す調査概要のとおり、企業・団体 1,200 社 (表 3-13) に調査票及びリーフレットを送付し、採用意向に関する調査を行った。調査業務は高校生対象アンケート同様に外部業者に委託した (委託業者からの調査結果報告書及び調査票様式は【資料 15】)。

<sup>9</sup> 【別紙 2 の 2-1~2-6】より、R5 年度の受験者総数 5,961 名 ÷ 合格者総数 4,905 名 = 1.2 倍を算出した。

表 3-12. 企業対象アンケート調査の概要

調査エリア	本学の卒業生の採用実績がある又は情報系人材の採用意欲が高いと思われる企業・団体の採用担当者
調査方法	郵送調査
依頼数	1,200 社
回収数	589 社 ※回収率：49.1%
調査時期	2023（令和 5）年 10 月 11 日（水）～11 月 10 日（金）
調査実施機関	株式会社 進研アド

表 3-13. 所在地別アンケート対象企業数

所在地	企業数	所在地	企業数	所在地	企業数
愛媛県	518	高知県	62	大阪府	19
広島県	179	東京都	45	大分県	16
香川県	163	山口県	29	福岡県	10
岡山県	114	徳島県	25	その他	20
				合計	1,200

調査の結果、回答があった 589 社のうち本学部の卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業・団体の数は 545 件（92.5%）であり、本学部卒業生の毎年の採用想定人数を合計すると 919 名となった。本学部が設定している入学定員 120 名を十分に上回る数値となり、本学部卒業生の社会的な需要の大きさが確認できた。

また、既に述べたように、本学部の教育課程には地域の企業・団体での実習を行う科目を設定しており、「キャリア教育実践」は 61 の企業・団体（受入人数の合計 313 名）、「地域連携インターンシップ」は 56 の企業・団体（受入人数の合計 242 名）から学生受入の承諾を得られている。このことから、本学部で学ぶ学生への関心の高さが伺える。

#### （４）新設組織の定員設定の理由

本学部の設置を検討するにあたり、受験者数及び入学者数を予測し、入学定員設定に資する客観的な数値を得ることを目的として、学部設置構想の最初期である 2022（令和 4）年 10 月に愛媛県内の高等学校 2 年生（当時）1,788 人を対象に事前マーケティング調査を実施した（この学年は本学部開設時の募集対象学年には該当せず、あくまで事前調査として実施した。調査の概要及び結果は【資料 16】）。

調査の結果から、「興味関心がある学問系統」の選択肢に示された学問分野の中から、「本学に情報学部があったら受験したいか」という問いに対して受験意向を示した回答者の割合が 40%を超えている学問分野を抽出した結果、「情報学」「工学（情報工学を除く）」「経済・経営・商学」「法学」の受験意向割合が 40%を超えていた。そこで、「情報学」をコアターゲットとし、「工学（情報工学を除く）」「経済・経営・商学」「法学」を拡大ターゲットと設定した。また、40%にはわずかに届かなかったが、情報学と分野の近い「理学（情報科学を除く）」も拡大ターゲットに加えた。表 4-1 は、コアターゲット

及び拡大ターゲットとした学問分野ごとに、アンケート調査で得られた各種割合を、実際の大学進学者数に乗じて予測した受験者数の見込みを示したものである。

表 4-1. 情報学部設置に係る事前マーケティング調査の結果①

学問分野	A	B	C	D	E
	大学 進学者数	学問分野 興味率	本学部 受験意向率	受験 実現率	受験者数 見込み
情報学	5,870	19.2%	73.4%	25.0%	207
工学（情報工学を除く）	5,870	20.0%	45.5%	25.0%	134
理学（情報科学を除く）	5,870	16.6%	37.6%	25.0%	92
経済・経営・商学，法学	5,870	48.7%	44.6%	25.0%	319
合計					751

続いて、受験者数見込み 751 名に基づき、各学問分野における私立大学進学率及び調査結果に基づく本学部選択率（本学の既設学部よりも優先して新設学部を選択すると回答した者の割合）を乗じて、入学者数見込みを算出したものが表 4-2 である。上振れ及び下振れの可能性を考慮し、プラス 10%からマイナス 10%の幅を持たせたところ、134~200 名の入学者が得られるという試算結果となった。

表 4-2. 情報学部設置に係る事前マーケティング調査の結果②

学問分野	E	F	G	H
	受験者数 見込み	私立大学 進学率	本学部 選択率	入学者数 見込み
情報学	207	55.0%	49.5%	45~67
工学（情報工学を除く）	134	50.0%	44.6%	24~36
理学（情報科学を除く）	92	50.0%	41.0%	15~23
経済・経営・商学，法学	319	70.0%	27.7%	50~74
合計	751			134~200

この事前マーケティング調査の対象は先に説明したとおり、愛媛県内の高校生に限定して実施している。本学の既設学部在学生のうち愛媛県出身者の占有率は約 65%である（表 2-3）。したがって他県出身者の受験・入学見込みを加えた入学定員設定を行うことも検討したが、確実な定員確保を第一に考え、試算から得られた愛媛県のみ入学者数見込みの下限值である 134 名よりも、さらに 1 割の下振れリスクを加味して入学定員を 120 名に設定した。

その上で、「（3）④学生確保に関するアンケート調査」で説明した内容のとおり、本学部の開設年度における募集対象となる学年の高校生を対象とした本調査を行い、設定した定員の妥当性について検証を行った。また、これに並行して、本学部のカリキュラム体系を構想し、大学設置基準が求める必要教員数や施設・設備などの学修環境、学費設定に伴う収支シミュレーション等を行い、財務上も問題がないことを確認した。

(1)～(3)で説明してきたように、本学部は地域の高等学校及び自治体から大きな期待を寄せられており、卒業者に対する十分な社会的需要も確認できている。さらに、入学定員設定に当たっては上振れの可能性は全て排除し、入学者の学力を担保することを重視して、見込み数値の下限よりもさらに定員を減じる定員設定とした。そのため、定員充足に支障をきたすリスクを極力小さくできていると考えている。

## 新設組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙 1

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位5都道府県）※直近年度

	都道府県名	人数	構成比
1	愛媛県	2,112人	53.5%
2	広島県	399人	10.1%
3	香川県	240人	6.1%
4	高知県	172人	4.4%
5	岡山県	165人	4.2%
	全体	3,947人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合のみ作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
1	愛媛県	100.39%	100.74%	100.18%
上記は愛媛県内の国公立大学の定員充足状況（以下参照）を元に作成				

※2校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

年度 大学名	令和3年度			令和4年度			令和5年度		
	入学定員	入学者数	充足率	入学定員	入学者数	充足率	入学定員	入学者数	充足率
愛媛大学	1,770	1,818	102.71%	1,770	1,822	102.94%	1,770	1,845	104.24%
愛媛県立医療技術大学	100	100	100.00%	100	100	100.00%	100	100	100.00%
松山大学	1,350	1,341	99.33%	1,350	1,334	98.81%	1,350	1,377	102.00%
聖カタリナ大学	250	231	92.40%	250	260	104.00%	250	183	73.20%
松山東雲女子大学	110	94	85.45%	110	76	69.09%	110	54	49.09%
人間環境大学	80	89	111.25%	160	164	102.50%	160	177	110.63%
岡山理科大学	200	202	101.00%	200	213	106.50%	200	211	105.50%
合計	3,860	3,875	100.39%	3,940	3,969	100.74%	3,940	3,947	100.18%

[各大学HPから本学調べ]

※人間環境大学と岡山理科大学は、愛媛県内に設置している学部の実績

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
1	情報科学部	113.49%	105.91%	111.91%
2	情報工学部	-	108.16%	110.20%

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

○収容定員充足率

申請者が設置する全ての大学等（大学、短期大学、高等専門学校のみ）の既設の学部（短期大学又は高等専門学校は学科）について記載してください。

大学等名	学部等名	学科名	収容定員	学生数 <small>(令和5年5月1日現在)</small>	収容定員充足率	備考	
松山大学	経済学部	経済学科	1600人	1644人	1.02		
	経営学部	経営学科	1600人	1674人	1.04		
	人文学部			940人	976人	1.03	
		英語英米文学		440人	436人	0.99	
		社会学科		500人	540人	1.08	
	法学部	法学科	860人	937人	1.08		
	薬学部	医療薬学科	600人	434人	0.72		
松山短期大学	商科第2部		200人	152人	0.76		

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人員	30人	30人	38人	46人	46人	38人	
	延べ人数	志願者数	94人	104人	126人	90人	143人	111人
		受験者数	94人	104人	125人	88人	140人	110人
		合格者数	33人	34人	37人	55人	89人	50人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	9人	7人	12人	22人	11人
	実人数	志願者数	94人	104人	126人	90人	143人	111人
		受験者数	94人	104人	125人	88人	140人	110人
		合格者数	33人	34人	37人	55人	89人	50人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	9人	7人	12人	22人	11人
	入学者数	28人	25人	30人	43人	67人	39人	
	学校推薦型選抜	募集人員	137人	137人	129人	129人	129人	132人
延べ人数		志願者数	145人	147人	150人	140人	130人	142人
		受験者数	145人	147人	150人	140人	130人	142人
		合格者数	145人	146人	150人	140人	130人	142人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	145人	147人	150人	140人	130人	142人
		受験者数	145人	147人	150人	140人	130人	142人
		合格者数	145人	146人	150人	140人	130人	142人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
入学者数		145人	146人	150人	140人	130人	142人	
一般選抜		募集人員	173人	178人	178人	165人	165人	172人
	延べ人数	志願者数	1672人	1549人	1067人	1268人	1061人	1323人
		受験者数	1436人	1376人	1056人	1263人	1055人	1237人
		合格者数	467人	678人	873人	955人	859人	766人
		うち追加合格者数	81人	148人	134人	79人	0人	88人
		辞退者数	330人	492人	673人	774人	693人	592人
	実人数	志願者数	1292人	1217人	1067人	1268人	1061人	1181人
		受験者数	1123人	1089人	1056人	1263人	1055人	1117人
		合格者数	466人	671人	873人	955人	859人	765人
		うち追加合格者数	81人	148人	134人	79人	0人	88人
		辞退者数	329人	485人	673人	774人	693人	591人
	入学者数	137人	186人	200人	181人	166人	174人	
	共通テスト利用入試	募集人員	50人	55人	55人	60人	60人	56人
延べ人数		志願者数	544人	619人	494人	604人	414人	535人
		受験者数	544人	618人	494人	603人	414人	535人
		合格者数	331人	273人	271人	342人	325人	308人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	248人	232人	244人	311人	283人	264人
実人数		志願者数	526人	594人	473人	583人	411人	517人
		受験者数	526人	593人	473人	582人	411人	517人
		合格者数	331人	273人	271人	342人	325人	308人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	248人	232人	244人	311人	283人	264人
入学者数		83人	41人	27人	31人	42人	45人	
その他の特別選抜		募集人員	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	合計	募集人員	390人	400人	400人	400人	400人	398人
延べ人数		志願者数	2455人	2419人	1837人	2102人	1749人	2112人
		受験者数	2219人	2245人	1825人	2094人	1740人	2025人
		合格者数	976人	1131人	1331人	1492人	1403人	1267人
		うち追加合格者数	81人	148人	134人	79人	0人	88人
		辞退者数	583人	733人	924人	1097人	998人	867人
実人数		志願者数	2057人	2062人	1816人	2081人	1746人	1952人
		受験者数	1888人	1933人	1804人	2073人	1737人	1887人
		合格者数	975人	1124人	1331人	1492人	1403人	1265人
		うち追加合格者数	81人	148人	134人	79人	0人	88人
		辞退者数	582人	726人	924人	1097人	998人	865人
入学者数		393人	398人	407人	395人	405人	400人	

2. 入学定員充足率

	H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均
入学定員	390人	400人	400人	400人	400人	398人
入学定員充足率	1.01	1.00	1.02	0.99	1.01	1.00
歩留率	0.40	0.35	0.31	0.26	0.29	0.32

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）  
 大学学部学科等名：松山大学経営学部経営学科

別紙2の2-2

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人員	65人	65人	65人	65人	65人	65人	
	延べ人数	志願者数	207人	191人	153人	256人	205人	202人
		受験者数	205人	191人	151人	243人	201人	198人
		合格者数	77人	99人	102人	107人	110人	99人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	29人	33人	30人	27人	33人	30人
	実人数	志願者数	207人	191人	153人	256人	205人	202人
		受験者数	205人	191人	151人	243人	201人	198人
		合格者数	77人	99人	102人	107人	110人	99人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	29人	33人	30人	27人	33人	30人
	入学者数	48人	66人	72人	80人	77人	69人	
	学校推薦型選抜	募集人員	85人	95人	95人	95人	95人	93人
		延べ人数	志願者数	98人	91人	93人	100人	96人
受験者数			98人	91人	93人	100人	96人	96人
合格者数			98人	91人	93人	100人	96人	96人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	0人	1人	0人	0人
実人数		志願者数	98人	91人	93人	100人	96人	96人
		受験者数	98人	91人	93人	100人	96人	96人
		合格者数	98人	91人	93人	100人	96人	96人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
入学者数		98人	91人	93人	99人	96人	95人	
一般選抜		募集人員	190人	190人	180人	180人	180人	184人
		延べ人数	志願者数	1520人	1383人	1045人	1180人	973人
	受験者数		1330人	1247人	1035人	1174人	968人	1151人
	合格者数		505人	608人	905人	922人	873人	763人
	うち追加合格者数		30人	24人	99人	66人	0人	44人
	辞退者数		330人	416人	675人	696人	670人	557人
	実人数	志願者数	1159人	1091人	1045人	1180人	973人	1090人
		受験者数	1023人	985人	1035人	1174人	968人	1037人
		合格者数	502人	599人	905人	922人	873人	760人
		うち追加合格者数	30人	24人	99人	66人	0人	44人
		辞退者数	327人	407人	675人	696人	670人	555人
	入学者数	175人	192人	230人	226人	203人	205人	
	共通テスト利用入試	募集人員	50人	50人	60人	60人	60人	56人
		延べ人数	志願者数	489人	454人	563人	526人	376人
受験者数			489人	454人	563人	525人	376人	481人
合格者数			277人	265人	277人	272人	289人	276人
うち追加合格者数			7人	0人	0人	0人	0人	1人
辞退者数			234人	215人	254人	248人	259人	242人
実人数		志願者数	477人	440人	544人	506人	374人	468人
		受験者数	477人	440人	544人	505人	374人	468人
		合格者数	277人	265人	277人	272人	289人	276人
		うち追加合格者数	7人	0人	0人	0人	0人	1人
		辞退者数	234人	215人	254人	248人	259人	242人
入学者数		43人	50人	23人	24人	30人	34人	
その他の特別選抜		募集人員	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	合計	募集人員	390人	400人	400人	400人	400人	398人
		延べ人数	志願者数	2314人	2119人	1854人	2062人	1650人
受験者数			2122人	1983人	1842人	2042人	1641人	1926人
合格者数			957人	1063人	1377人	1401人	1368人	1233人
うち追加合格者数			37人	24人	99人	66人	0人	45人
辞退者数			593人	664人	959人	972人	962人	830人
実人数		志願者数	1941人	1813人	1835人	2042人	1648人	1856人
		受験者数	1803人	1707人	1823人	2022人	1639人	1799人
		合格者数	954人	1054人	1377人	1401人	1368人	1231人
		うち追加合格者数	37人	24人	99人	66人	0人	45人
		辞退者数	590人	655人	959人	972人	962人	828人
入学者数		364人	399人	418人	429人	406人	403人	

2. 入学定員充足率

	H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均
入学定員	390人	400人	400人	400人	400人	398人
入学定員充足率	0.93	1.00	1.05	1.07	1.02	1.01
歩留率	0.38	0.38	0.30	0.31	0.30	0.33

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人員	0人	0人	20人	20人	20人	12人	
	延べ人数	志願者数	0人	0人	26人	49人	32人	21人
		受験者数	0人	0人	26人	49人	32人	21人
		合格者数	0人	0人	26人	37人	29人	18人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	6人	10人	8人	5人
	実人数	志願者数	0人	0人	26人	49人	32人	21人
		受験者数	0人	0人	26人	49人	32人	21人
		合格者数	0人	0人	26人	37人	29人	18人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	6人	10人	8人	5人
	入学者数	0人	0人	20人	27人	21人	14人	
	学校推薦型選抜	募集人員	15人	15人	15人	15人	15人	15人
		延べ人数	志願者数	19人	20人	18人	17人	13人
受験者数			19人	20人	17人	17人	13人	17人
合格者数			19人	20人	17人	17人	12人	17人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	19人	20人	18人	17人	13人	17人
		受験者数	19人	20人	17人	17人	13人	17人
		合格者数	19人	20人	17人	17人	12人	17人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
入学者数		19人	20人	17人	17人	12人	17人	
一般選抜		募集人員	65人	65人	63人	63人	63人	64人
		延べ人数	志願者数	537人	408人	333人	314人	279人
	受験者数		481人	365人	328人	313人	277人	353人
	合格者数		146人	204人	292人	275人	274人	238人
	うち追加合格者数		26人	39人	66人	66人	0人	39人
	辞退者数		99人	129人	226人	216人	214人	177人
	実人数	志願者数	405人	331人	333人	314人	279人	332人
		受験者数	374人	304人	328人	313人	277人	319人
		合格者数	145人	202人	292人	275人	274人	238人
		うち追加合格者数	26人	39人	66人	66人	0人	39人
		辞退者数	98人	127人	226人	216人	214人	176人
	入学者数	47人	75人	66人	59人	60人	61人	
	共通テスト利用入試	募集人員	10人	10人	12人	12人	12人	11人
		延べ人数	志願者数	166人	90人	190人	112人	127人
受験者数			166人	90人	190人	112人	127人	137人
合格者数			91人	67人	61人	75人	86人	76人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			86人	64人	59人	67人	79人	71人
実人数		志願者数	166人	90人	182人	108人	126人	134人
		受験者数	166人	90人	182人	108人	126人	134人
		合格者数	91人	67人	61人	75人	86人	76人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	86人	64人	59人	67人	79人	71人
入学者数		5人	3人	2人	8人	7人	5人	
その他の特別選抜		募集人員	10人	20人	0人	0人	0人	6人
		延べ人数	志願者数	35人	35人	1人	0人	0人
	受験者数		34人	35人	1人	0人	0人	14人
	合格者数		15人	25人	1人	0人	0人	8人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		5人	10人	0人	0人	0人	3人
	実人数	志願者数	35人	35人	1人	0人	0人	14人
		受験者数	34人	35人	1人	0人	0人	14人
		合格者数	15人	25人	1人	0人	0人	8人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	10人	0人	0人	0人	3人
	入学者数	10人	15人	1人	0人	0人	5人	
	合計	募集人員	100人	110人	110人	110人	110人	108人
		延べ人数	志願者数	757人	553人	568人	492人	451人
受験者数			700人	510人	562人	491人	449人	542人
合格者数			271人	316人	397人	404人	401人	358人
うち追加合格者数			26人	39人	66人	66人	0人	39人
辞退者数			190人	203人	291人	293人	301人	256人
実人数		志願者数	625人	476人	560人	488人	450人	520人
		受験者数	593人	449人	554人	487人	448人	506人
		合格者数	270人	314人	397人	404人	401人	357人
		うち追加合格者数	26人	39人	66人	66人	0人	39人
		辞退者数	189人	201人	291人	293人	301人	255人
入学者数		81人	113人	106人	111人	100人	102人	

2. 入学定員充足率

	H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均
入学定員	100人	110人	110人	110人	110人	108人
入学定員充足率	0.81	1.03	0.96	1.01	0.91	0.94
歩留率	0.30	0.36	0.27	0.27	0.25	0.29

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）  
 大学学部学科等名：松山大学人文学部社会学科

別紙2の2-4

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人員	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学校推薦型選抜	募集人員	15人	20人	20人	0人	0人	11人
延べ人数		志願者数	19人	25人	18人	0人	0人	12人
		受験者数	19人	25人	18人	0人	0人	12人
		合格者数	19人	25人	18人	0人	0人	12人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	19人	25人	18人	0人	0人	12人
		受験者数	19人	25人	18人	0人	0人	12人
		合格者数	19人	25人	18人	0人	0人	12人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
入学者数		19人	25人	18人	0人	0人	12人	
一般選抜		募集人員	90人	90人	82人	92人	92人	89人
	延べ人数	志願者数	930人	876人	669人	723人	642人	768人
		受験者数	807人	787人	665人	716人	639人	723人
		合格者数	242人	355人	493人	520人	589人	440人
		うち追加合格者数	11人	96人	32人	0人	0人	28人
		辞退者数	171人	251人	403人	413人	459人	339人
	実人数	志願者数	725人	679人	669人	723人	642人	688人
		受験者数	645人	622人	665人	716人	639人	657人
		合格者数	239人	353人	493人	520人	589人	439人
		うち追加合格者数	11人	96人	32人	0人	0人	28人
		辞退者数	168人	249人	403人	413人	459人	338人
	入学者数	71人	104人	90人	107人	130人	100人	
	共通テスト利用入試	募集人員	15人	15人	23人	33人	33人	24人
延べ人数		志願者数	185人	211人	351人	260人	246人	251人
		受験者数	185人	211人	351人	260人	246人	251人
		合格者数	130人	106人	109人	157人	186人	138人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	107人	95人	99人	143人	166人	122人
実人数		志願者数	185人	211人	340人	252人	245人	247人
		受験者数	185人	211人	340人	252人	245人	247人
		合格者数	130人	106人	109人	157人	186人	138人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	107人	95人	99人	143人	166人	122人
入学者数		23人	11人	10人	14人	20人	16人	
その他の特別選抜		募集人員	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	合計	募集人員	120人	125人	125人	125人	125人	124人
延べ人数		志願者数	1134人	1112人	1038人	983人	888人	1031人
		受験者数	1011人	1023人	1034人	976人	885人	986人
		合格者数	391人	486人	620人	677人	775人	590人
		うち追加合格者数	11人	96人	32人	0人	0人	28人
		辞退者数	278人	346人	502人	556人	625人	461人
実人数		志願者数	929人	915人	1027人	975人	887人	947人
		受験者数	849人	858人	1023人	968人	884人	916人
		合格者数	388人	484人	620人	677人	775人	589人
		うち追加合格者数	11人	96人	32人	0人	0人	28人
		辞退者数	275人	344人	502人	556人	625人	460人
入学者数		113人	140人	118人	121人	150人	128人	

2. 入学定員充足率

	H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均
入学定員	120人	125人	125人	125人	125人	124人
入学定員充足率	0.94	1.12	0.94	0.97	1.20	1.03
歩留率	0.29	0.29	0.19	0.18	0.19	0.23

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人員	55人	60人	0人	0人	0人	23人	
	延べ人数	志願者数	189人	134人	0人	0人	0人	65人
		受験者数	188人	134人	0人	0人	0人	64人
		合格者数	59人	74人	0人	0人	0人	27人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	14人	22人	0人	0人	0人	7人
	実人数	志願者数	189人	134人	0人	0人	0人	65人
		受験者数	188人	134人	0人	0人	0人	64人
		合格者数	59人	74人	0人	0人	0人	27人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	14人	22人	0人	0人	0人	7人
	入学者数	45人	52人	0人	0人	0人	19人	
	学校推薦型選抜	募集人員	30人	30人	90人	90人	90人	66人
延べ人数		志願者数	44人	39人	147人	205人	197人	126人
		受験者数	44人	39人	146人	202人	193人	125人
		合格者数	44人	39人	114人	129人	130人	91人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	25人	24人	30人	16人
実人数		志願者数	44人	39人	147人	205人	197人	126人
		受験者数	44人	39人	146人	202人	193人	125人
		合格者数	44人	39人	114人	129人	130人	91人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	25人	24人	30人	16人
入学者数		44人	39人	89人	105人	100人	75人	
一般選抜		募集人員	100人	100人	90人	90人	90人	94人
	延べ人数	志願者数	912人	861人	688人	753人	572人	757人
		受験者数	777人	768人	680人	747人	565人	707人
		合格者数	218人	387人	485人	441人	461人	398人
		うち追加合格者数	0人	59人	0人	37人	0人	19人
		辞退者数	150人	273人	371人	342人	317人	291人
	実人数	志願者数	700人	671人	688人	753人	572人	677人
		受験者数	607人	605人	680人	747人	565人	641人
		合格者数	217人	385人	485人	441人	461人	398人
		うち追加合格者数	0人	59人	0人	37人	0人	19人
		辞退者数	149人	271人	371人	342人	317人	290人
	入学者数	68人	114人	114人	99人	144人	108人	
	共通テスト利用入試	募集人員	25人	25人	35人	35人	35人	31人
延べ人数		志願者数	294人	282人	435人	309人	264人	317人
		受験者数	294人	282人	435人	309人	264人	317人
		合格者数	179人	118人	174人	157人	179人	161人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	126人	105人	154人	141人	158人	137人
実人数		志願者数	286人	274人	420人	299人	262人	308人
		受験者数	286人	274人	420人	299人	262人	308人
		合格者数	179人	118人	174人	157人	179人	161人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	126人	105人	154人	141人	158人	137人
入学者数		53人	13人	20人	16人	21人	25人	
その他の特別選抜		募集人員	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	合計	募集人員	210人	215人	215人	215人	215人	214人
延べ人数		志願者数	1439人	1316人	1270人	1267人	1033人	1265人
		受験者数	1303人	1223人	1261人	1258人	1022人	1213人
		合格者数	500人	618人	773人	727人	770人	678人
		うち追加合格者数	0人	59人	0人	37人	0人	19人
		辞退者数	290人	400人	550人	507人	505人	450人
実人数		志願者数	1219人	1118人	1255人	1257人	1031人	1176人
		受験者数	1125人	1052人	1246人	1248人	1020人	1138人
		合格者数	499人	616人	773人	727人	770人	677人
		うち追加合格者数	0人	59人	0人	37人	0人	19人
		辞退者数	289人	398人	550人	507人	505人	450人
入学者数		210人	218人	223人	220人	265人	227人	

2. 入学定員充足率

	H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均
入学定員	210人	215人	215人	215人	215人	214人
入学定員充足率	1.00	1.01	1.04	1.02	1.23	1.06
歩留率	0.42	0.35	0.29	0.30	0.34	0.34

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）  
 大学学部学科等名：松山大学薬学部医療薬学科

別紙2の2-6

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人員	15人	15人	15人	10人	10人	13人	
	延べ人数	志願者数	17人	11人	7人	8人	5人	10人
		受験者数	16人	11人	7人	8人	4人	9人
		合格者数	14人	10人	7人	6人	4人	8人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	3人	0人	1人	1人	1人
	実人数	志願者数	17人	11人	7人	8人	5人	10人
		受験者数	16人	11人	7人	8人	4人	9人
		合格者数	14人	10人	7人	6人	4人	8人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	3人	0人	1人	1人	1人
	入学者数	12人	7人	7人	5人	3人	7人	
	学校推薦型選抜	募集人員	10人	10人	10人	15人	15人	12人
		延べ人数	志願者数	13人	11人	11人	10人	11人
受験者数			13人	11人	11人	10人	11人	11人
合格者数			13人	11人	11人	10人	11人	11人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	13人	11人	11人	10人	11人	11人
		受験者数	13人	11人	11人	10人	11人	11人
		合格者数	13人	11人	11人	10人	11人	11人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
入学者数		13人	11人	11人	10人	11人	11人	
一般選抜		募集人員	55人	55人	55人	55人	55人	55人
		延べ人数	志願者数	178人	179人	129人	168人	134人
	受験者数		155人	163人	127人	152人	116人	143人
	合格者数		148人	160人	120人	116人	95人	128人
	うち追加合格者数		0人	6人	0人	0人	4人	2人
	辞退者数		91人	110人	76人	78人	66人	84人
	実人数	志願者数	156人	163人	129人	148人	100人	139人
		受験者数	150人	154人	127人	145人	98人	135人
		合格者数	145人	153人	120人	114人	85人	123人
		うち追加合格者数	0人	6人	0人	0人	4人	2人
		辞退者数	88人	103人	76人	76人	56人	80人
	入学者数	57人	50人	44人	38人	29人	44人	
	共通テスト利用入試	募集人員	20人	20人	20人	20人	20人	20人
		延べ人数	志願者数	137人	91人	140人	144人	96人
受験者数			131人	86人	139人	142人	93人	118人
合格者数			106人	78人	125人	113人	78人	100人
うち追加合格者数			0人	0人	7人	0人	0人	1人
辞退者数			95人	68人	119人	107人	70人	92人
実人数		志願者数	130人	86人	137人	144人	95人	118人
		受験者数	128人	82人	136人	142人	92人	116人
		合格者数	105人	77人	123人	113人	78人	99人
		うち追加合格者数	0人	0人	7人	0人	0人	1人
		辞退者数	94人	67人	117人	107人	70人	91人
入学者数		11人	10人	6人	6人	8人	8人	
その他の特別選抜		募集人員	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	合計	募集人員	100人	100人	100人	100人	100人	100人
		延べ人数	志願者数	345人	292人	287人	330人	246人
受験者数			315人	271人	284人	312人	224人	281人
合格者数			281人	259人	263人	245人	188人	247人
うち追加合格者数			0人	6人	7人	0人	4人	3人
辞退者数			188人	181人	195人	186人	137人	177人
実人数		志願者数	316人	271人	284人	310人	211人	278人
		受験者数	307人	258人	281人	305人	205人	271人
		合格者数	277人	251人	261人	243人	178人	242人
		うち追加合格者数	0人	6人	7人	0人	4人	3人
	辞退者数	184人	173人	193人	184人	127人	172人	
入学者数	93人	78人	68人	59人	51人	70人		

2. 入学定員充足率

	H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均
入学定員	100人	100人	100人	100人	100人	100人
入学定員充足率	0.93	0.78	0.68	0.59	0.51	0.70
歩留率	0.33	0.30	0.26	0.24	0.27	0.28

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

## 既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

## ①募集を行った学科等名称及び取組の名称：松山大学のオープンキャンパス

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	1491人	2022人	①取組概要 定員を設けてキャンパスを開放し、大学説明、模擬授業、学生プレゼン、施設見学等を実施した。 R4年度入試対象(R3開催)：計6回開催(7/22.7/31.8/1.8/7.8/8.11/3) R5年度入試対象(R4開催)：計7回開催(4/29.7/18.7/30.7/31.8/6.8/7.10/10) ※「うち受験対象者数(b)」は参加者の内高校3年生  ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 オープンキャンパス等の来場者のうち新設学部に関心のある者を650名獲得することを目標とし、既設学部の2か年平均受験率(67.9%)より、受験者数441名を見込む。
うち受験対象者数(b)	886人	1089人	
うち受験者数(c)	616人	721人	
うち入学者数(d)	420人	544人	
(受験率 c/b)	69.53%	66.21%	
(入学率 d/b)	47.40%	49.95%	

## ②募集を行った学科等名称及び取組の名称：松山大学の大学案内の配布(郵送)

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	10156人	11805人	①取組概要 松山大学の案内資料(大学案内・入学試験要項)を大学オフィシャルサイトや受験情報誌からの請求者に対して配布した。 ※「参加者等総数(a)」は資料請求で接触した者の総数(延べ人数) ※「うち受験対象者数(b)」は(a)のうち高校3年生と既卒生の合計(延べ人数)  ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 資料請求者のうち新設学部に関心のある者を3,000名を獲得することを目標とし、既設学部の2か年平均受験率(19.6%)より、受験者数588名を見込む。
うち受験対象者数(b)	10153人	11797人	
うち受験者数(c)	2217人	2053人	
うち入学者数(d)	1089人	1150人	
(受験率 c/b)	21.84%	17.40%	
(入学率 d/b)	10.73%	9.75%	

## ③募集を行った学科等名称及び取組の名称：

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	—	—	—
うち受験対象者数(b)	—	—	
うち受験者数(c)	—	—	
うち入学者数(d)	—	—	
(受験率 c/b)	#VALUE!	#VALUE!	
(入学率 d/b)	#VALUE!	#VALUE!	

## ④募集を行った学科等名称及び取組の名称：

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	—	—	—
うち受験対象者数(b)	—	—	
うち受験者数(c)	—	—	
うち入学者数(d)	—	—	
(受験率 c/b)	#VALUE!	#VALUE!	
(入学率 d/b)	#VALUE!	#VALUE!	

## ⑤募集を行った学科等名称及び取組の名称：

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	—	—	—
うち受験対象者数(b)	—	—	
うち受験者数(c)	—	—	
うち入学者数(d)	—	—	
(受験率 c/b)	#VALUE!	#VALUE!	
(入学率 d/b)	#VALUE!	#VALUE!	